

IV 調査結果

1 男女の地位や役割について

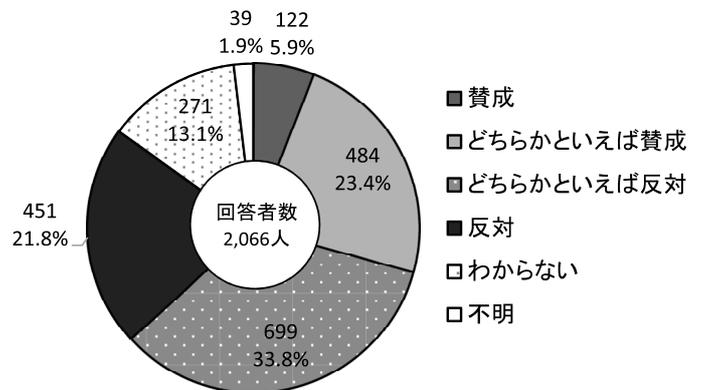
(1) 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について

問 1 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか。
(1つ選択)

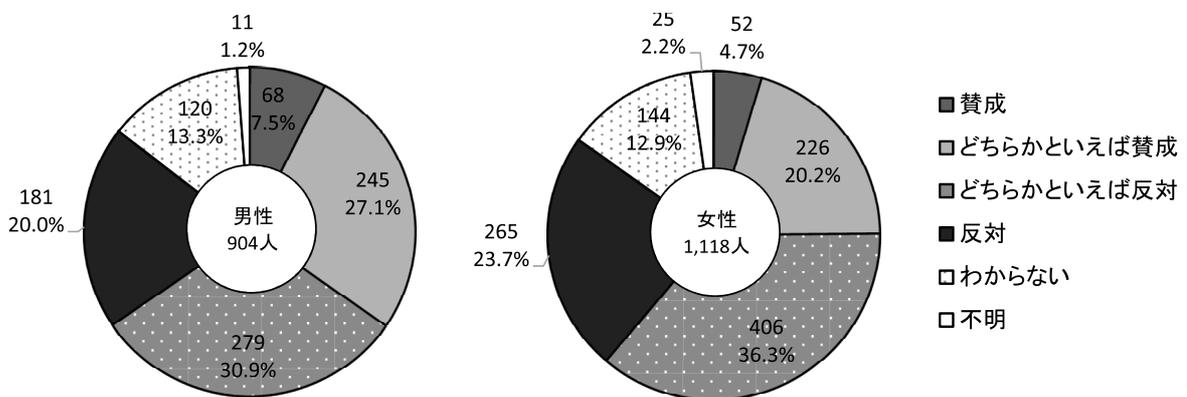
- | | | |
|------|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 2 どちらかといえば賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 4 反対 | 5 わからない | |

「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方については、賛成派（「賛成」「どちらかといえば賛成」）が 29.3%、反対派（「反対」「どちらかといえば反対」）が 55.6%と、反対派が2割以上上回っている。

問 1 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」

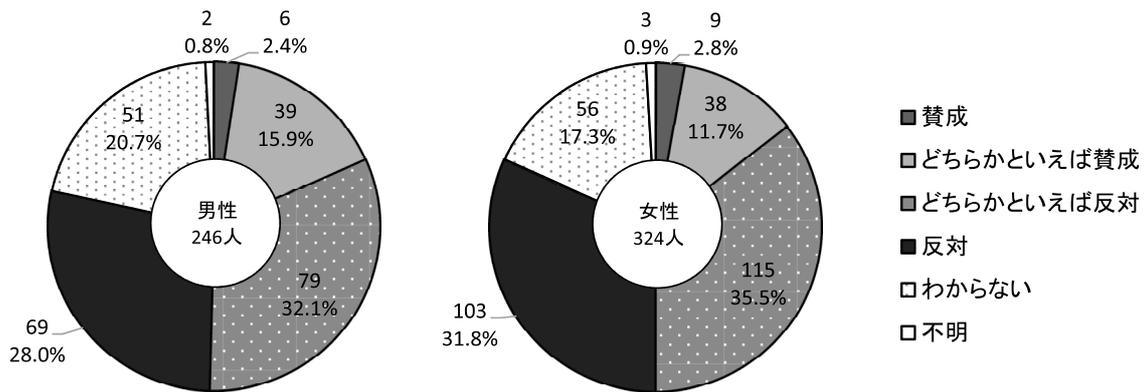


問 1 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」【男女別】



男女別にみると、男性は、賛成派 34.6%、反対派 50.9%、女性は、賛成派 24.9%、反対派 60.0%で、いずれも反対派の割合が高いものの、男女で意識の差が大きく、女性の反対派の割合は、男性における割合を 9.1 ポイント上回っている。

問1 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」【男女別・50歳未満】



また、50歳未満でみると、男性は、賛成派18.3%、反対派60.1%、女性は、賛成派14.5%、反対派67.3%で、男女ともに反対派の割合が高くなっている。

問1 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」(前回調査比較)

	賛成派		反対派		わからない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
今回	34.6	24.9	50.9	60.0	13.3	12.9
前回	44.6	34.1	41.4	48.7	11.9	15.0
全国	39.4	31.1	55.7	63.4	4.9	5.5

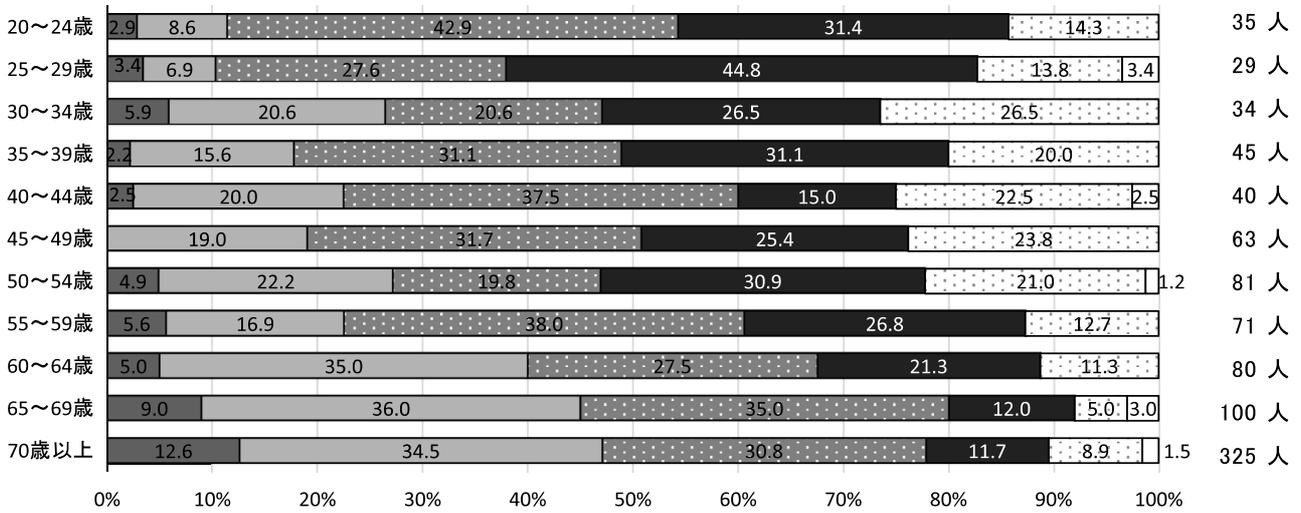
(全国：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府)

前回調査と比較すると、反対派の割合は、男性で9.5ポイント増(41.4%→50.9%)、女性で11.3ポイント増(48.7%→60.0%)となっており、さらに上昇している傾向にある。

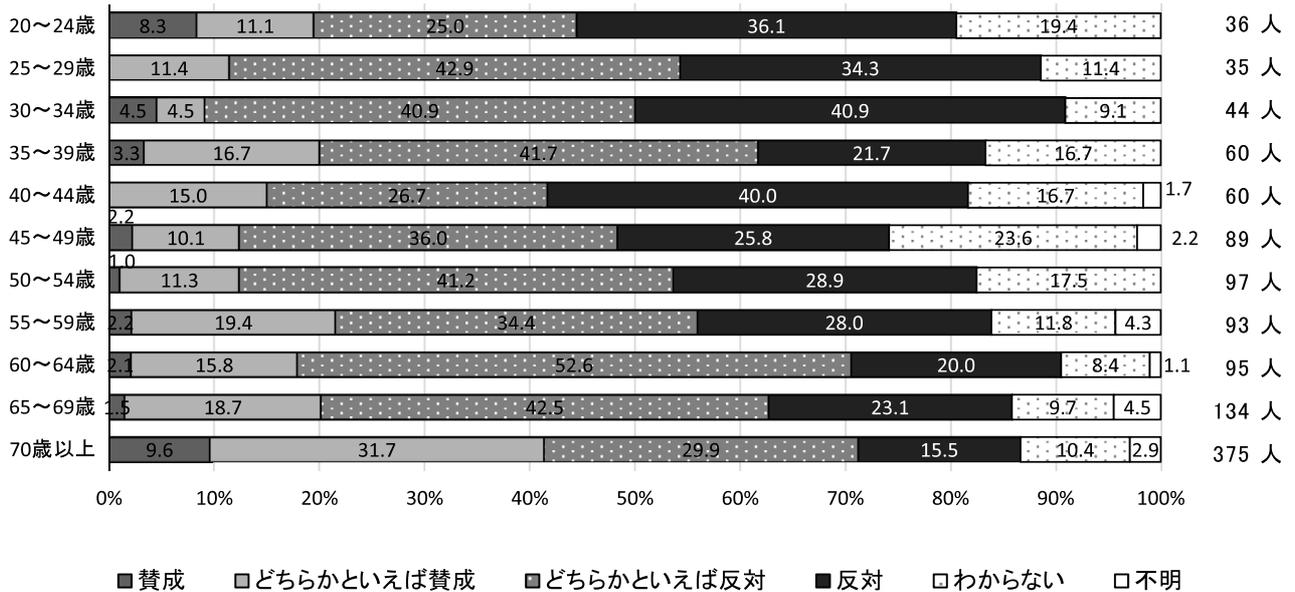
一方、全国と比較すると、男女共に賛成派、反対派のどちらも国より低くなっており、「わからない」という回答が高くなっている。

問1 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



■賛成 □どちらかといえば賛成 ■どちらかといえば反対 ■反対 □わからない □不明

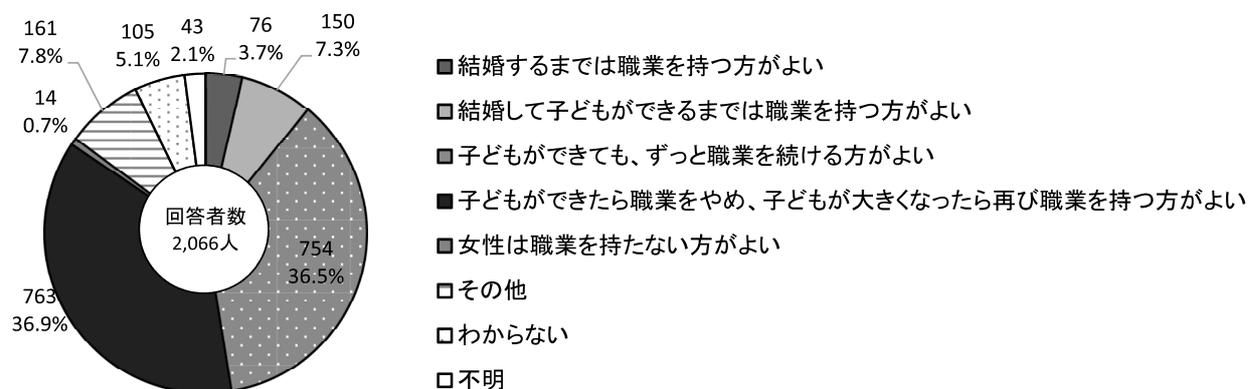
男女別・年齢別にみると、男性では60歳以上の各年齢層で、賛成派が4割以上と高くなっている。一方、女性では70歳以上で賛成派が4割以上であるものの、69歳以下の各年齢層で反対派が6割以上となっており、広い年齢層で「反対」意向が定着しつつあることがうかがえる。

(2) 女性が職業を持つことについて

問2 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。(1つ選択)

- 1 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 2 結婚して子どもができるまでは職業を持つ方がよい
- 3 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 4 子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- 5 女性は職業を持たない方がよい
- 6 その他 ()
- 7 わからない

問2 女性が職業を持つことについて

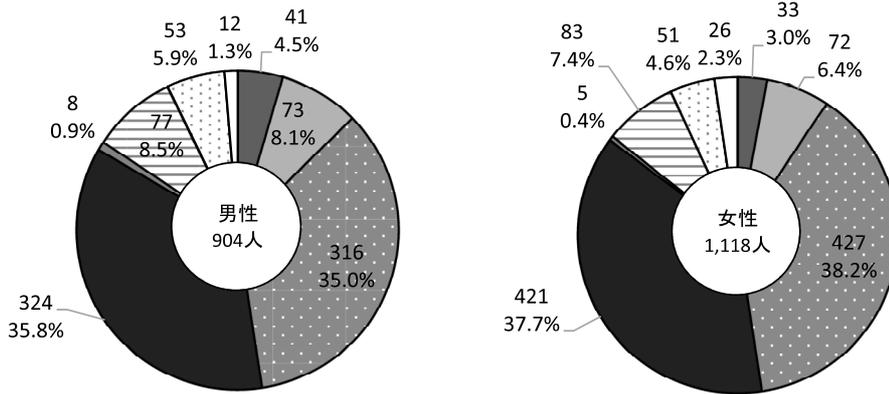


■その他の回答（抜粋）

- ・家庭それぞれの事情による
- ・家庭、人によってそれぞれだと思う
- ・個人の自由、女性が決めること
- ・保育園に預けられるなら続けて仕事をした方がよいと思う
- ・子どもができたら家庭6：仕事4くらいの割合がベスト
- ・経済的に余裕があれば持つ必要はない など

女性が職業を持つことについては、「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が36.9%で最も多く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が36.5%となっている。

問2 女性が職業を持つことについて【男女別】

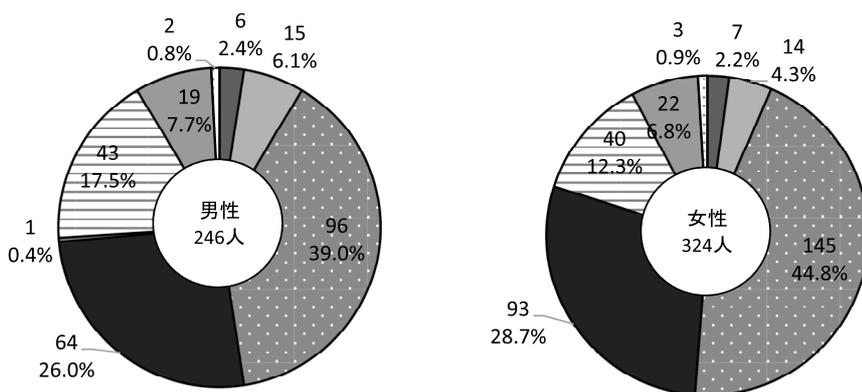


- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 結婚して子どもができるまでは職業を持つ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- 女性は職業を持たない方がよい
- その他
- わからない
- 不明

男女別にみると、男性では「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が35.8%で最も高く、女性では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が38.2%と高くなっている。

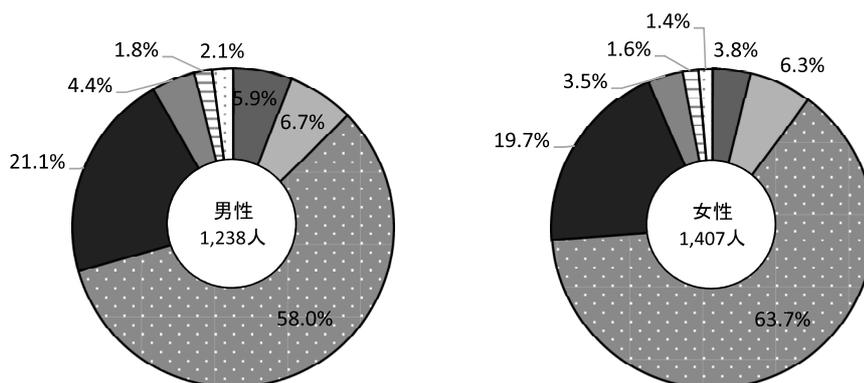
また、50歳未満でみると、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が高くなっているが、男性で39.0%、女性で44.8%と、女性での割合が高くなっている。前回調査と比較すると、男性では7.9ポイント(31.1%→39.0%)、女性では10.5ポイント(34.3%→44.8%)の上昇で、仕事を続ける方がよいという意向が男女ともに強くなっている。

問2 女性が職業を持つことについて【男女別・50歳未満】



- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 結婚して子どもができるまでは職業を持つ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- 女性は職業を持たない方がよい
- その他
- わからない
- 不明

参考 女性が職業を持つことについて（全国）



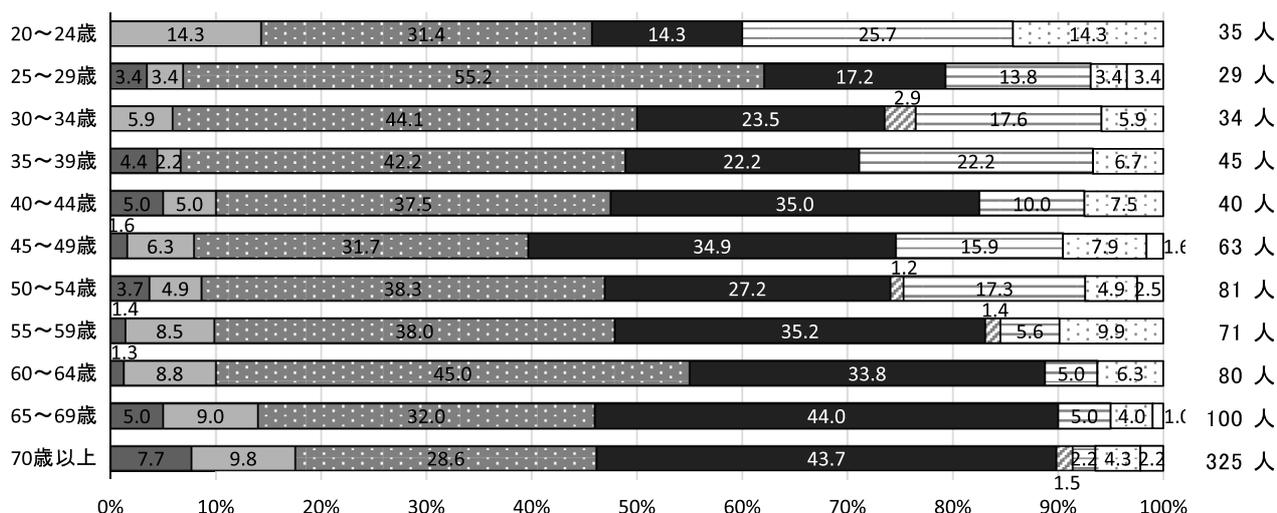
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子供ができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子供ができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 女性は職業をもたない方がよい
- その他
- わからない

（「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府を元に作成）

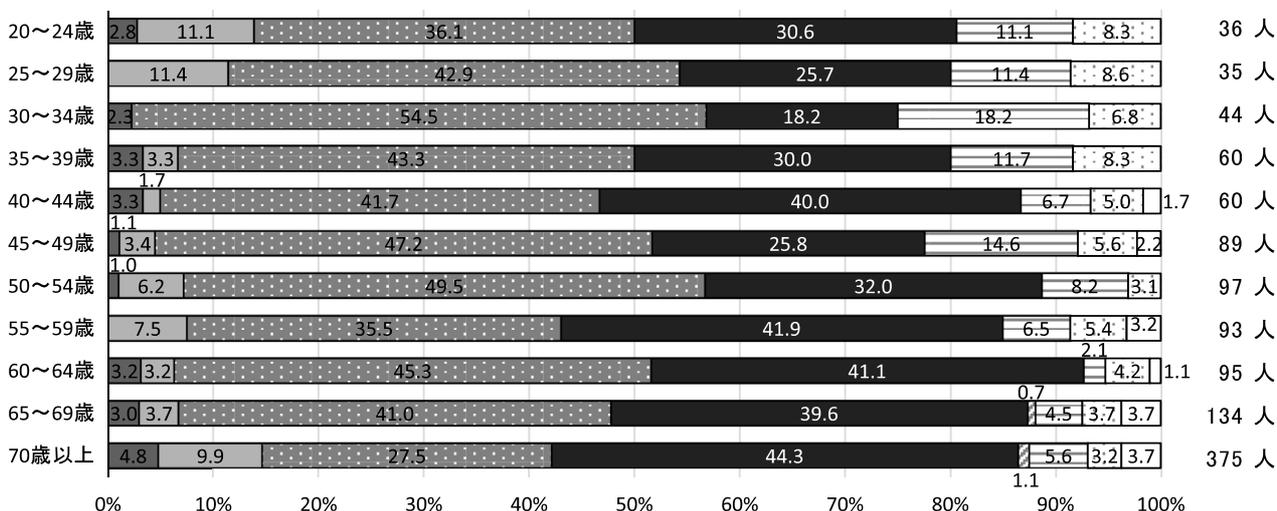
国の調査をみると、全国では「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」が男女共に6割前後を占めているのに対し、本市では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は男女共に4割弱であり、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が同程度の割合を占めていることが大きな特徴である。

問2 女性が職業を持つことについて

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 結婚して子どもができるまでは職業を持つ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- 女性には職業を持たない方がよい
- その他
- わからない
- 不明

男女別・年齢別にみると、男性では20代・30代の若年層で「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高く、65歳以上の高齢層では「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が高くなっている。

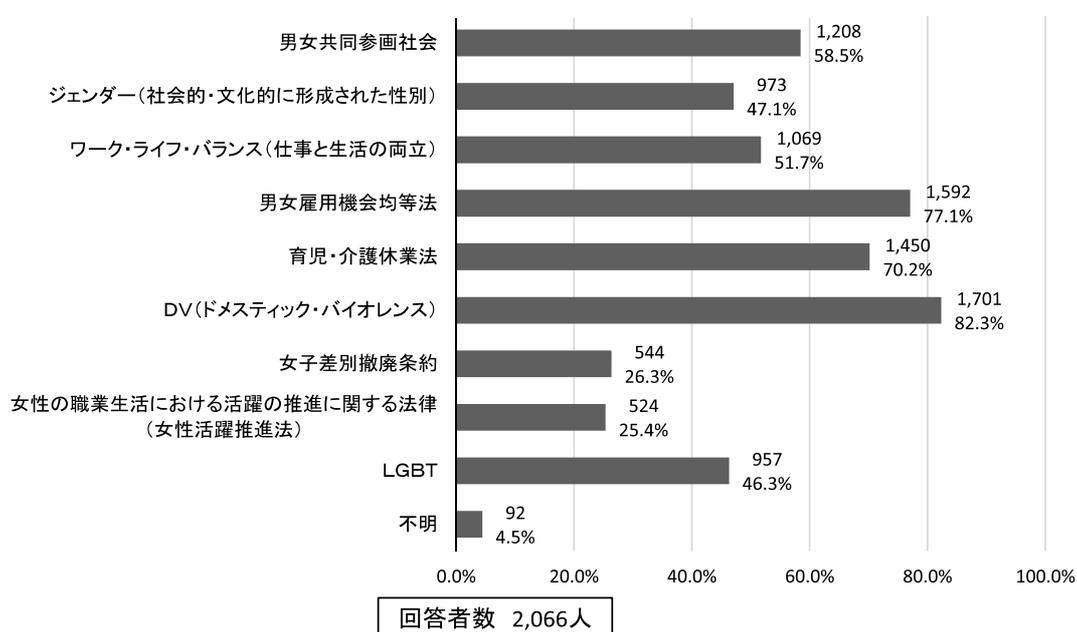
一方、女性では、20代から50代前半、60代といった幅広い年齢層で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっており、ずっと職業を続けたほうがよいという考え方が世代を問わず定着しつつある。

(3) 男女共同参画に関する言葉の周知度

問3 次の言葉の中で、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。(すべて選択)

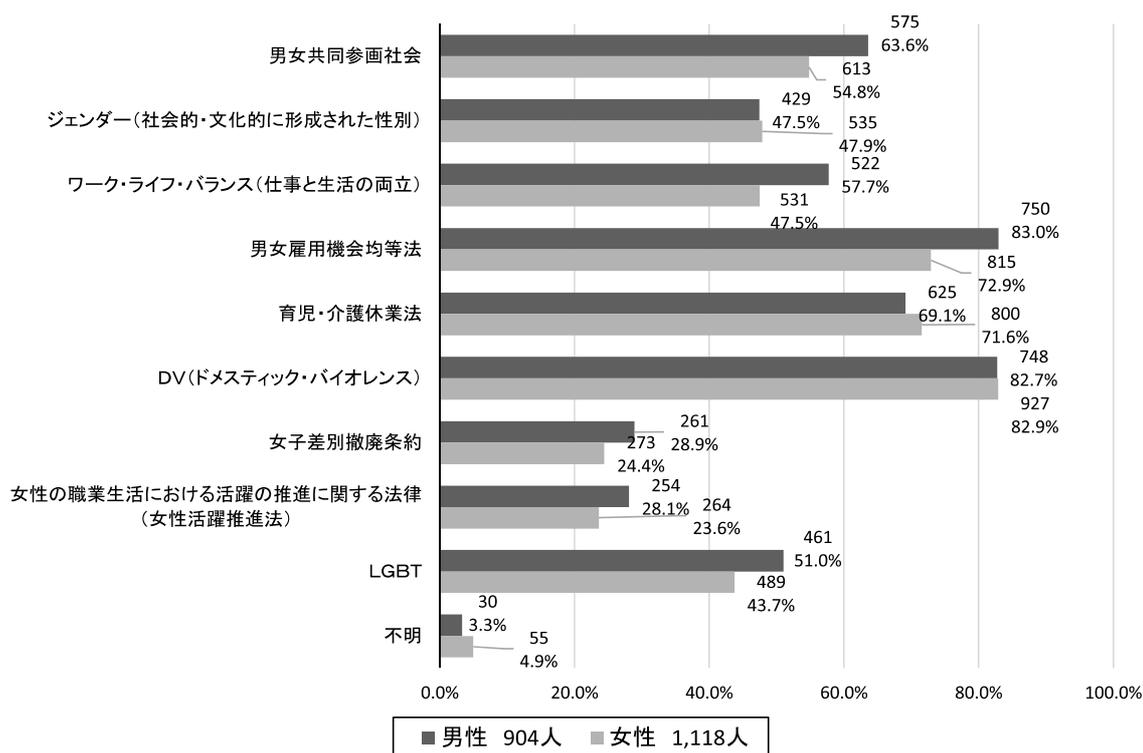
- 1 男女共同参画社会
- 2 ジェンダー (社会的・文化的に形成された性別)
- 3 ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の両立)
- 4 男女雇用機会均等法
- 5 育児・介護休業法
- 6 DV (ドメスティック・バイオレンス)
- 7 女子差別撤廃条約
- 8 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 (女性活躍推進法)
- 9 L G B T

問3 男女共同参画に関する言葉の周知度



男女共同参画に関する言葉の周知度については、「DV (ドメスティック・バイオレンス)」(82.3%)、「男女雇用機会均等法」(77.1%)、「育児・介護休業法」(70.2%)と高くなっている。一方、「女子差別撤廃条約」(26.3%)、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 (女性活躍推進法)」(25.4%)については、周知度が低くなっている。

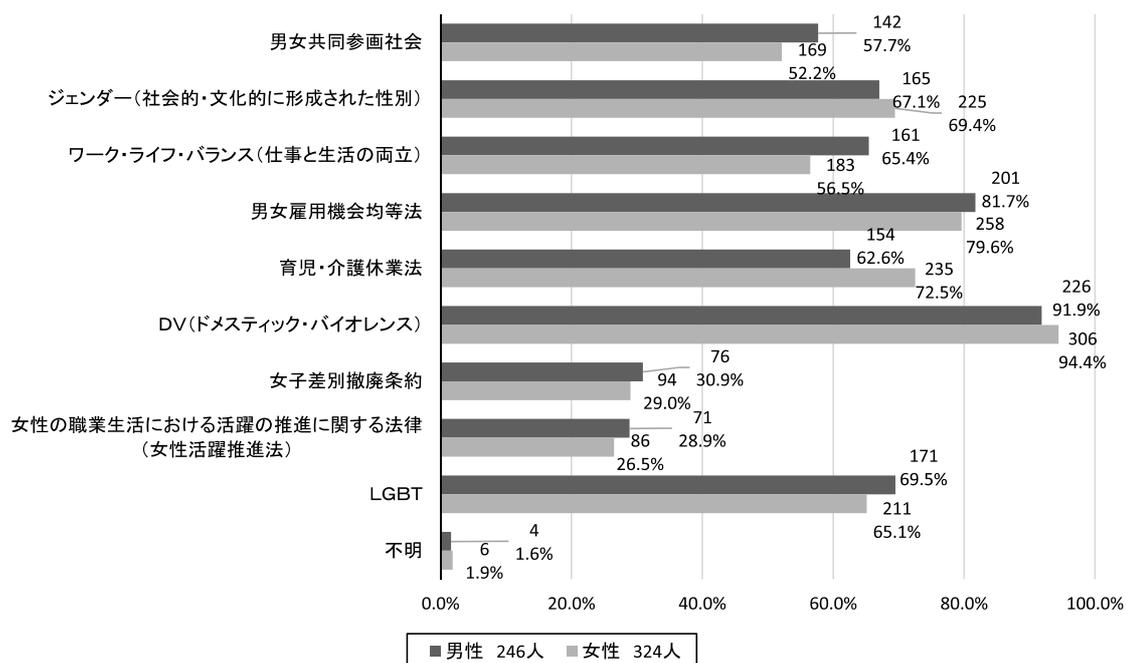
問3 男女共同参画に関する言葉の周知度【男女別】



男女別にみると、男性のほうが周知度が高い項目としては、「男女雇用機会均等法」、「男女共同参画」、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）」等となっている。一方、女性のほうが周知度が高い項目としては、「育児・介護休業法」等となっている。

また、50歳未満でみると、男女ともに「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」「LGBT」についての周知度が大幅に上昇しており、比較的若い世代を中心に言葉が定着しつつあると考えられる。

問3 男女共同参画に関する言葉の周知度【男女別・50歳未満】



※ 男女共同参画に関する言葉の周知度（前回調査比較）

(%)

		男女共同参画社会	ジェンダー	ワーク・ライフ・バランス	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	DV	女子差別撤廃条約	女性活躍推進法	LGBT
男性	今回	63.6	47.5	57.7	83.0	69.1	82.7	28.9	28.1	51.0
	前回	56.1	23.2	50.2	83.5	70.4	79.8	25.7	—	—
	全国	67.4	55.2	44.3	81.3	—	80.4	40.3	42.4	—
女性	今回	54.8	47.9	47.5	72.9	71.6	82.9	24.4	23.6	43.7
	前回	48.7	20.5	39.5	76.7	70.4	81.8	24.3	—	—
	全国	61.5	56.4	42.1	77.5	—	82.4	29.8	35.3	—

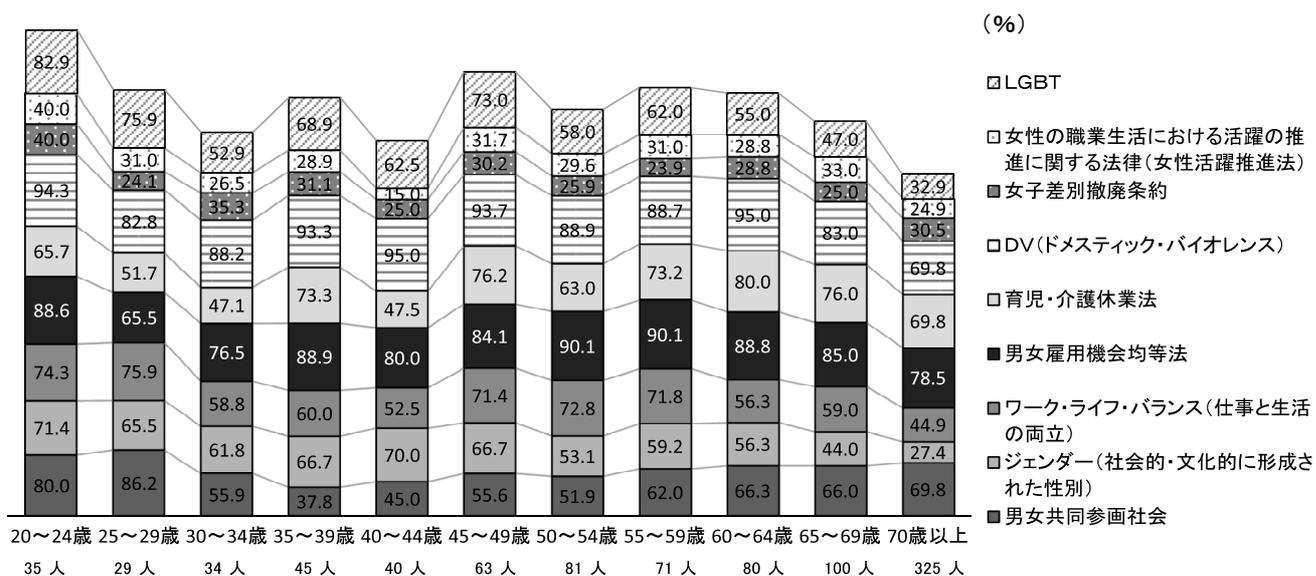
(全国：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府)

前回調査と比較すると、「ジェンダー」の周知度が男女ともに倍増しており（男性：23.2%→47.5%、女性：20.5%→47.9%）、この言葉が社会に浸透してきていることがうかがえる。

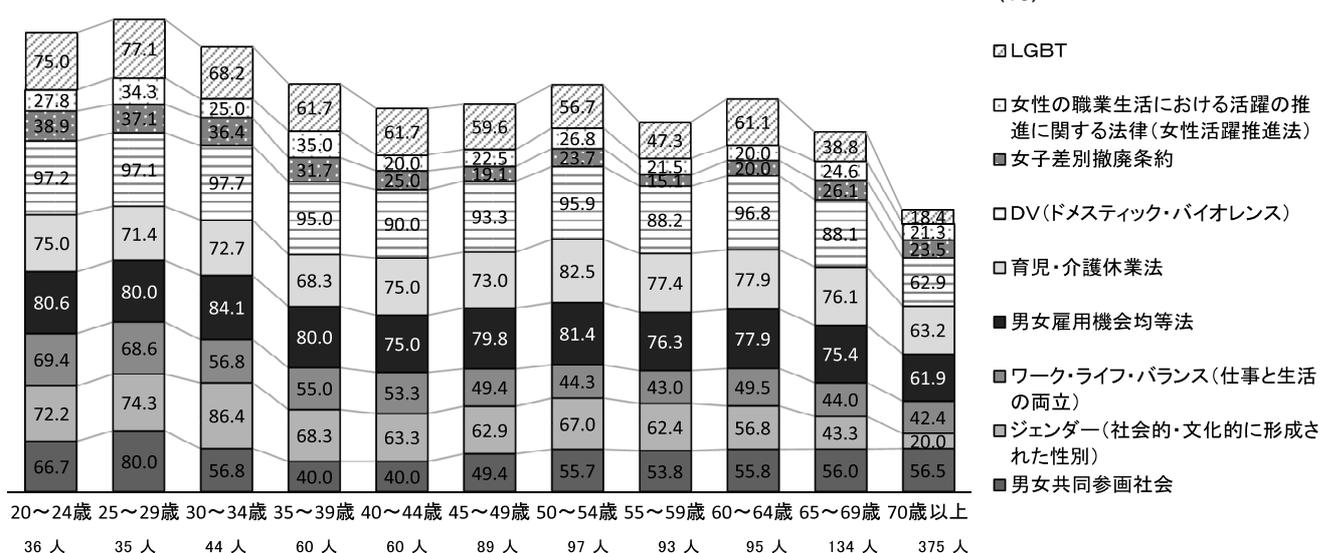
全国と比較すると、本市では「ワーク・ライフ・バランス」の周知度は高くなっているが、「男女共同参画社会」「ジェンダー」「女子差別撤廃条約」「女性活躍推進法」といった言葉の周知度は低くなっている。

問3 男女共同参画に関する言葉の周知度

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



男女別・年齢別に認識度を比較すると、「DV(ドメスティック・バイオレンス)」「育児・介護休業法」「男女雇用機会均等法」については、幅広い年代で周知度が高く、社会に浸透してきていることがうかがえる。

一方で、全般的に若い年齢層のほうが言葉を知っている割合が高く、特に「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)」「LGBT」については、若い年齢層ほど周知度が高く、世代間の差が大きくなっている。

(4) 男女の地位について

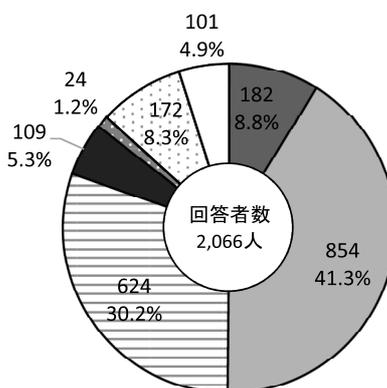
問4 あなたは、次の分野において男女の地位は平等になっていると思いますか。(各項目1つ選択)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(1)家庭生活	1	2	3	4	5	6
(2)職場	1	2	3	4	5	6
(3)学校教育	1	2	3	4	5	6
(4)社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
(5)政治の場	1	2	3	4	5	6
(6)町内会・自治会等の自治組織	1	2	3	4	5	6
(7)コミュニティ	1	2	3	4	5	6
(8)社会全体	1	2	3	4	5	6

ア 家庭生活

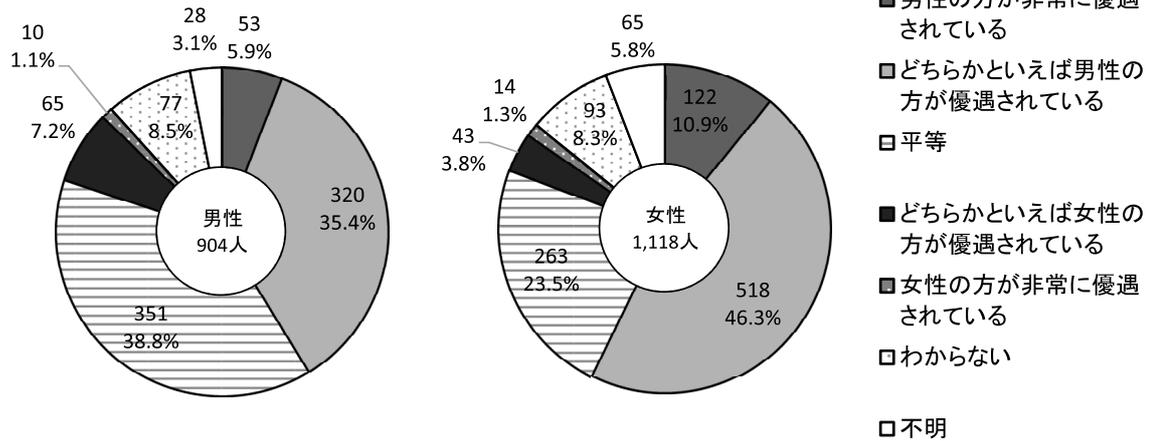
家庭生活における男女の地位については、“男性優遇”(「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)が50.1%、“女性優遇”(「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)が6.5%、「平等」が30.2%となっている。

問4- (1) 家庭生活



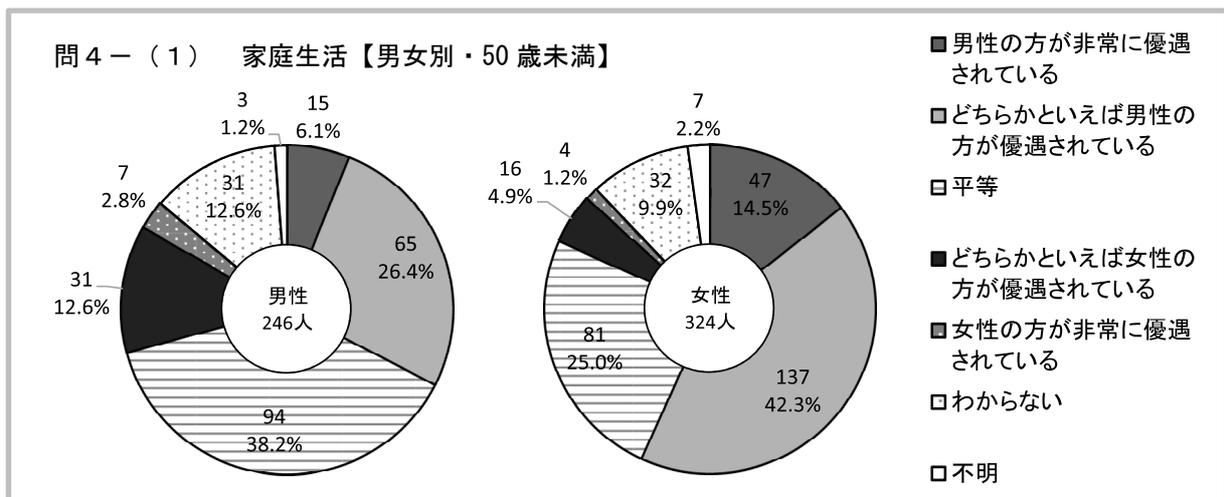
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

問4－(1) 家庭生活【男女別】



男女別にみると、「男性優遇」と感じる割合は、男性で41.3%、女性で57.2%と、女性の方が15.9ポイント上回っている。

50歳未満でみると、男女の平等感は全体と変わらないものの、男性では「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と感じる割合が高く、女性では「男性の方が非常に優遇されている」と感じる割合が高くなっており、家庭生活における男女の地位の感じ方には大きな意識の差がある。



※ 平等感の比較（家庭生活）

	平等		男性優遇		女性優遇		わからない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
今回	38.8	23.5	41.3	57.2	8.3	5.1	8.5	8.3
前回	36.7	19.8	39.0	55.8	10.7	8.6	7.8	8.9
全国	52.7	39.1	37.3	51.6	8.0	6.5	1.9	2.8

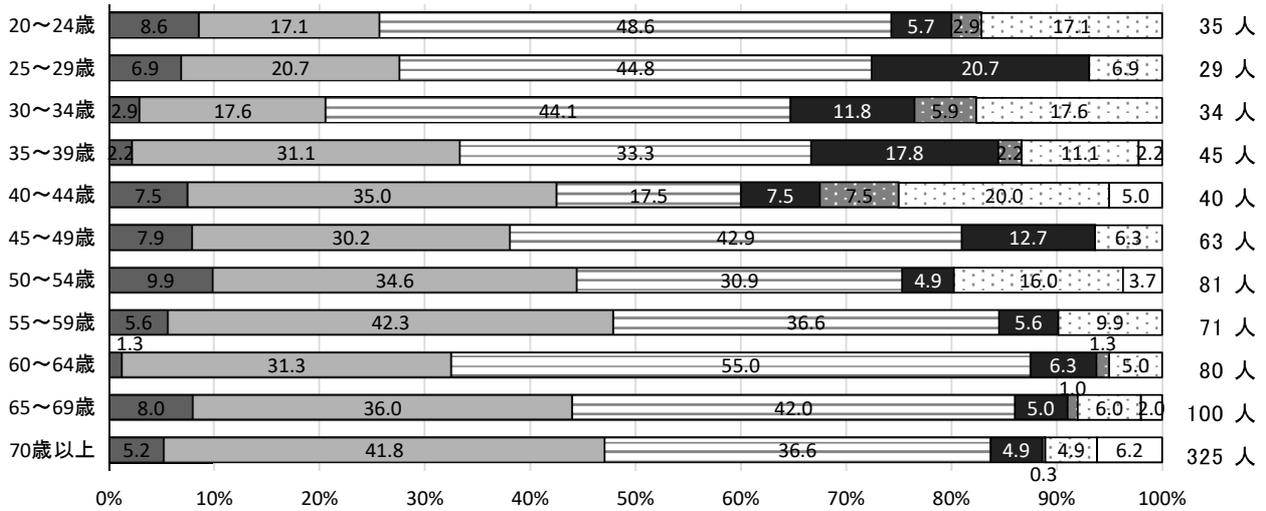
(全国：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府)

前回調査と比較すると、家庭生活を「平等」と感じる割合は、男性で2.1ポイント増（36.7%→38.8%）、女性で3.7ポイント増（19.8%→23.5%）と若干上昇している。

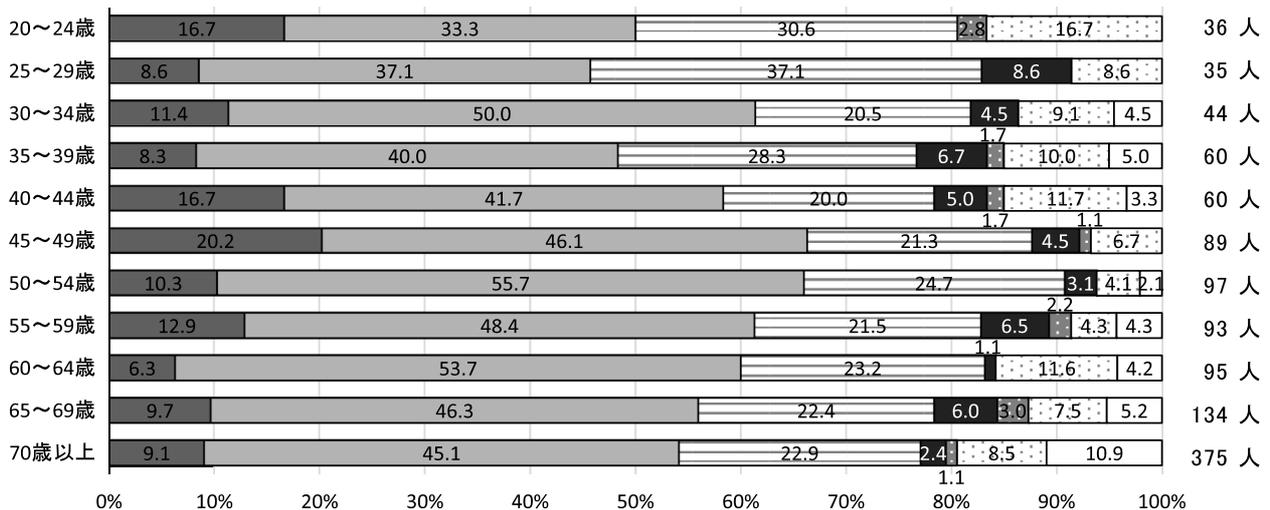
しかし、全国と比較すると、本市で「平等」と感じる割合は男女共に1割以上低くなっている。

問4-(1) 家庭生活

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

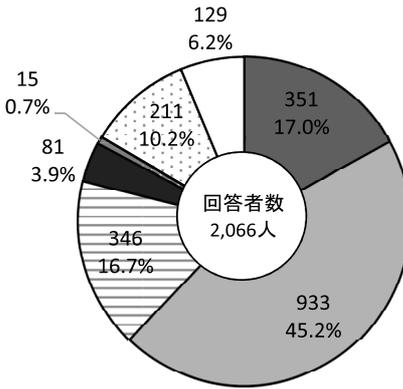
男女別・年齢別にみると、ほぼすべての年齢層で男性の方が「平等」と感じる割合が高くなっており、特に20代や30代前半の若い世代では、“男性優遇”と感じる割合が低くなっている。

女性は、すべての年齢層で男性よりも“男性優遇”と感じる割合が高いが、特に30代前半、40代、50代等で、家庭生活上で“男性優遇”と感じる傾向が強くなっている。

イ 職場

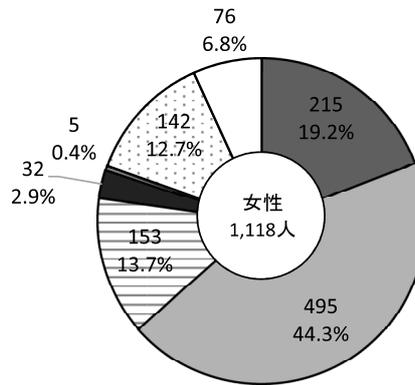
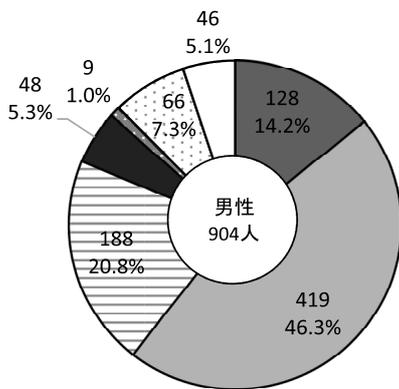
職場における男女の地位については、“男性優遇”が62.2%、“女性優遇”が4.6%、「平等」が16.7%で、“男性優遇”が高い割合を占めている。

問4-(2) 職場



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

問4-(2) 職場【男女別】

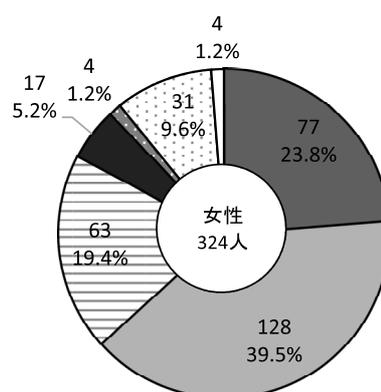
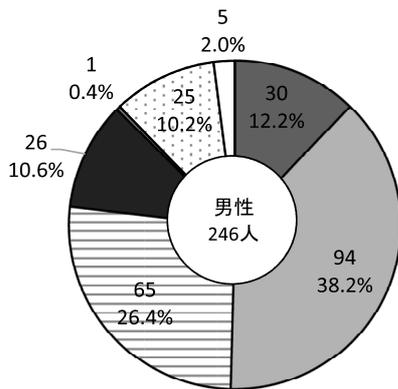


- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

男女別にみると、“男性優遇”と感じる割合は、男性で60.5%、女性で63.5%と、女性の方が3.0ポイント上回っている。

50歳未満でみると、男女の“平等感”は全体よりは高くなるものの、男性では「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と感じる割合が高く、女性では「男性の方が非常に優遇されている」と感じる割合が高くなっており、職場における男女の地位の感じ方には意識の差が見受けられる。

問4-(2) 職場【男女別・50歳未満】



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

※ 平等感の比較 (職場)

	平等		男性優遇		女性優遇		わからない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
今回	20.8	13.7	60.5	63.5	6.3	3.3	7.3	12.7
前回	17.3	10.7	63.1	66.4	7.1	3.0	6.3	11.9
全国	33.3	28.4	52.7	54.1	5.3	4.7	8.7	12.8

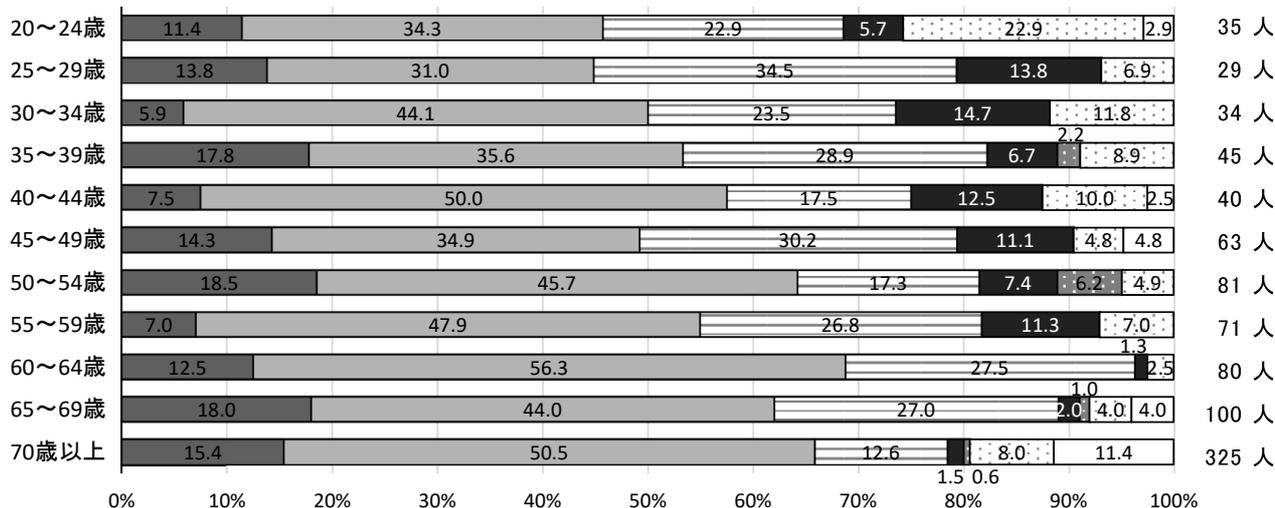
(全国：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府)

前回調査と比較すると、職場を「平等」と感じる割合は、男性で3.5ポイント増（17.3%→20.8%）、女性で3.0ポイント増（10.7%→13.7%）と若干上昇している。

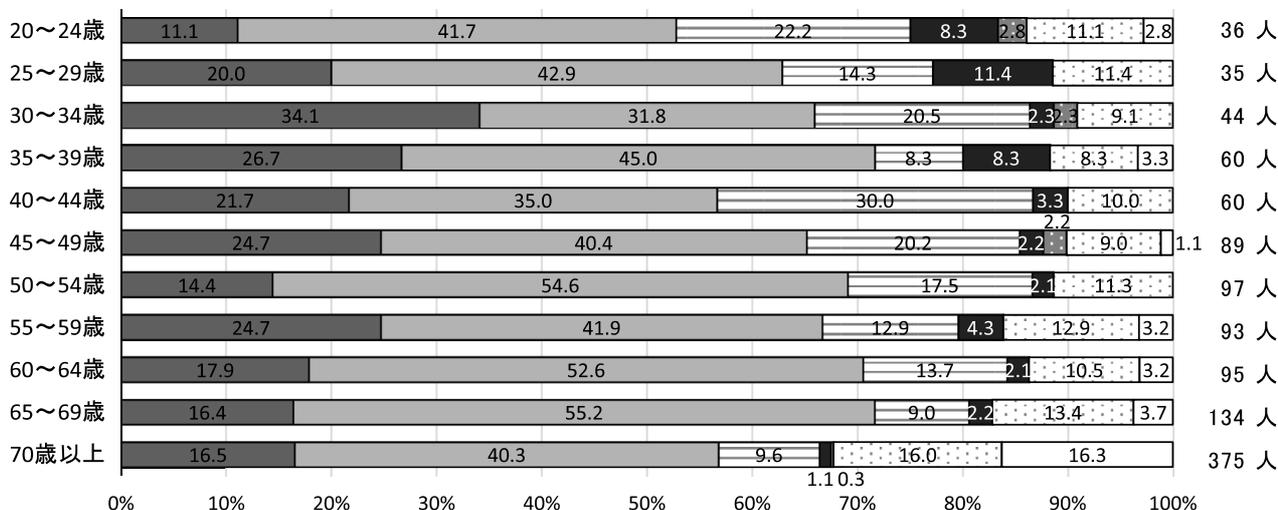
しかし、全国と比較すると、本市で「平等」と感じる割合は男女共に1割以上低く、“男性優遇”の割合が高くなっている。

問4-(2) 職場

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

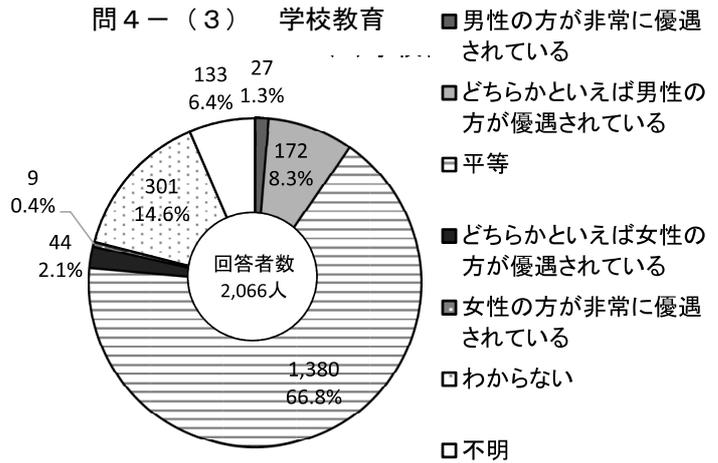
男女別・年齢別にみると、ほぼすべての年齢層で男性の方が「平等」と感じる割合が高くなっており、特に20代や30代前半の若い世代では、“男性優遇”と感じる割合が他の年齢層より低くなっている。

女性は、すべての年齢層で男性よりも“男性優遇”と感じる割合が高く、どの年代でも職場で“男性優遇”と感じる傾向が強くなっている。

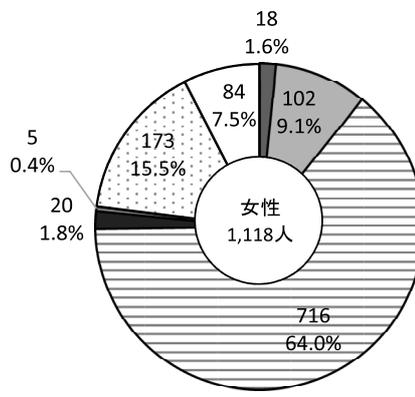
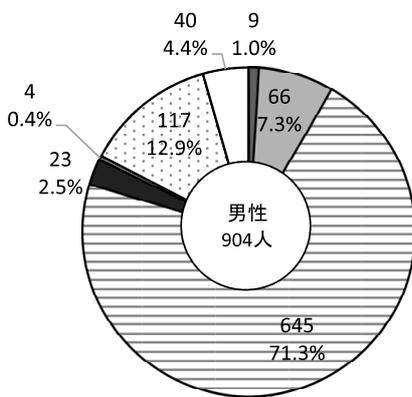
ウ 学校教育

学校教育における男女の地位については、「平等」が66.8%、「男性優遇」が9.6%、「女性優遇」が2.5%で、男女の“平等感”が高い項目となっている。

問4-(3) 学校教育



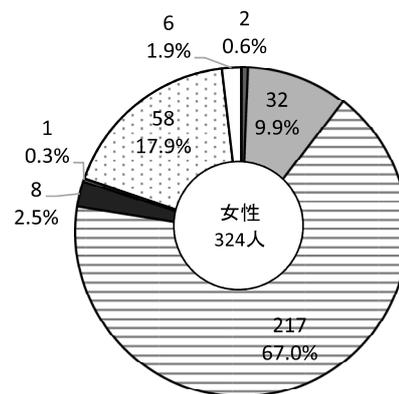
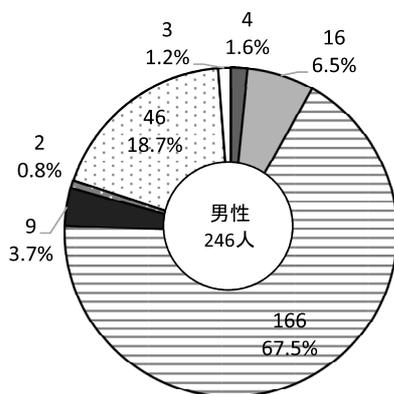
問4-(3) 学校教育【男女別】



男女別にみると、「平等」と感じる割合は、男性で71.3%、女性で64.0%と、女性の方が7.3ポイント下回っている。

50歳未満でみると、学校教育に対する“平等感”は、男女でほぼ同じ割合となっている。一方で男性では“女性優遇”と感じる割合が4.5%と全体よりも若干高くなっている。

問4-(3) 学校教育【男女別・50歳未満】



※ 平等感の比較 (学校教育)

	平等		男性優遇		女性優遇		わからない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
今回	71.3	64.0	8.3	10.7	2.9	2.2	12.9	15.5
前回	74.1	66.9	5.5	8.9	3.4	1.7	10.7	14.1
全国	62.8	59.8	17.0	19.8	2.9	2.3	17.3	18.1

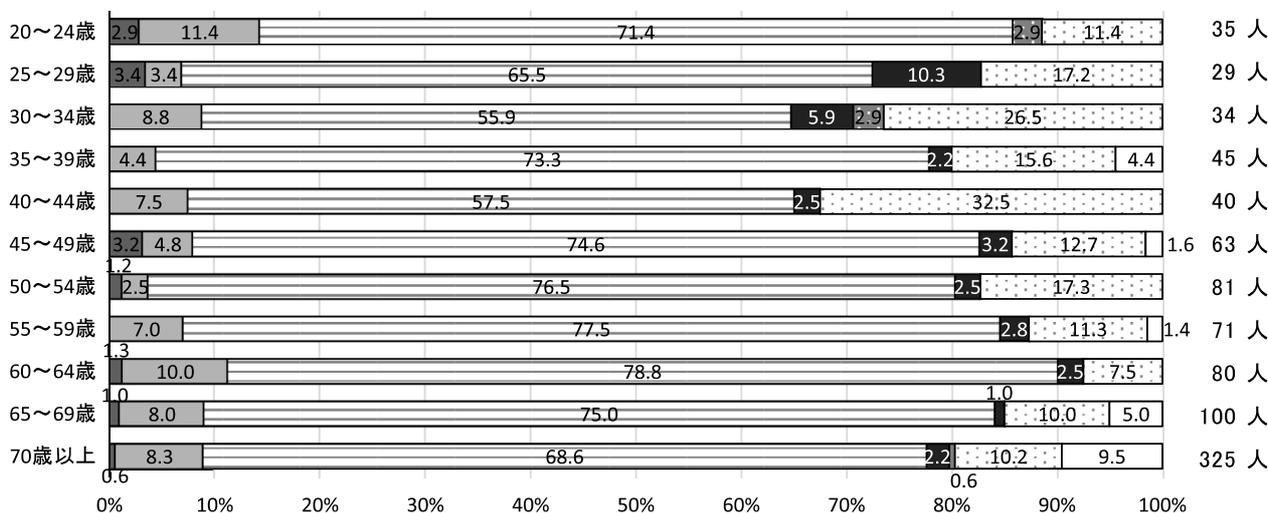
(全国：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府)

前回調査と比較すると、学校教育の場で「平等」と感じる割合は、男性で2.8ポイント減（74.1%→71.3%）、女性で1.9ポイント減（66.9%→64.0%）と若干下降している。

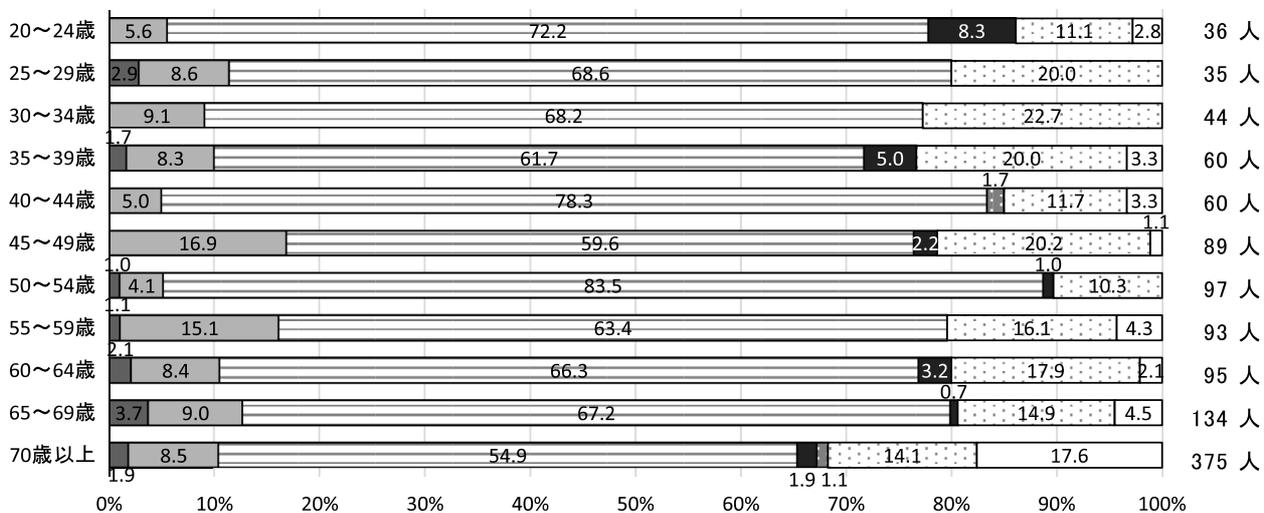
しかし、全国と比較すると、本市で「平等」と感じる割合は男女共に高くなっており、男女共同参画が教育の場で根付いてきていると考えられる。

問4-(3) 学校教育

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

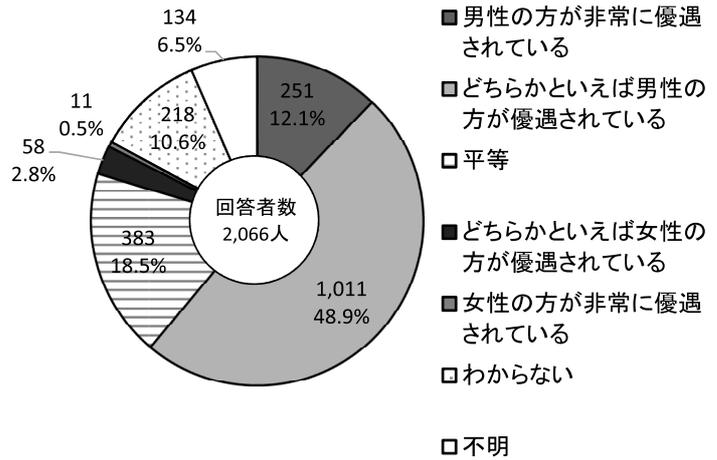
男女別・年齢別にみると、全ての年齢層で半数以上が“平等感”を感じているが、20代や30代前半の若年層では、女性の方が「平等」と感じる割合が高く、男性は“女性優遇”や“わからない”と感じる割合が比較的高くなっている。

一方で、50代後半以降の中老年層では、男性の方が「平等」と感じる割合が高くなっているおりに、時代に合わせた学校教育の変化により、年齢層で感じ方に差が生じていることが考えられる。

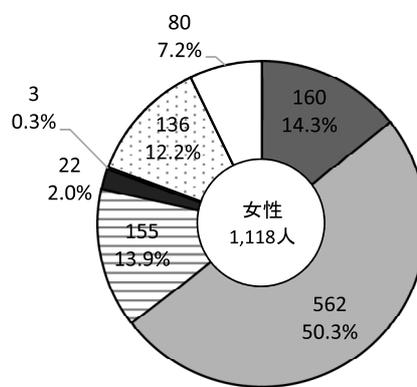
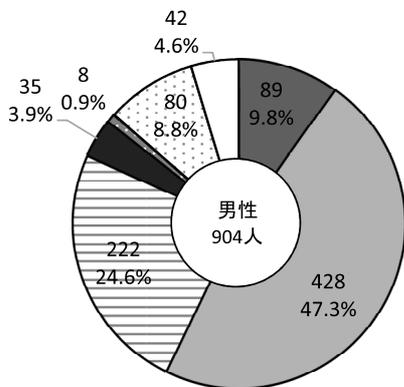
エ 社会通念・慣習・しきたりなど

社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位については、“男性優遇”が61.0%、“女性優遇”が3.3%、「平等」が18.5%と、“男性優遇”が高い割合を占めている。

問4-(4) 社会通念・慣習・しきたりなど



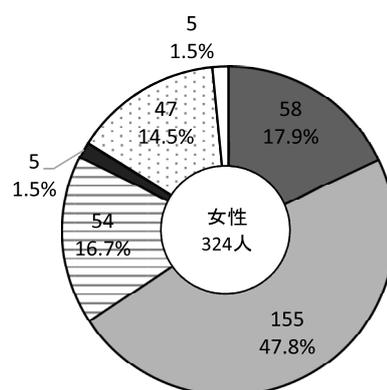
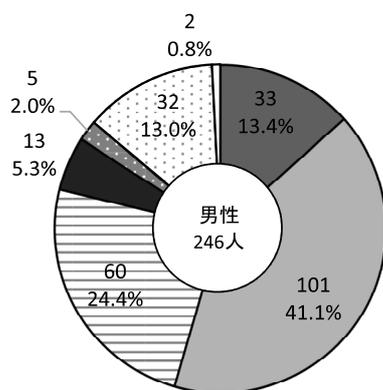
問4-(4) 社会通念・慣習・しきたりなど【男女別】



男女別にみると、“男性優遇”と感じる割合は、男性で57.1%、女性で64.6%と、女性の方が7.5ポイント上回っている。

50歳未満でみると、男女ともに「男性が非常に優遇されている」と感じる割合が全体よりも高く、本市の社会通念・慣習・しきたりなどにおける“男性優遇”が未だに根強いことがうかがえる。

問4-(4) 社会通念・慣習・しきたりなど【男女別・50歳未満】



※ 平等感の比較（社会通念・慣習・しきたりなど）

	平等		男性優遇		女性優遇		わからない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
今回	24.6	13.9	57.1	64.6	4.8	2.3	8.8	12.2
前回	20.6	12.6	60.8	64.4	4.7	2.7	7.3	11.9
全国	25.0	20.5	68.5	71.5	2.6	2.0	4.0	6.0

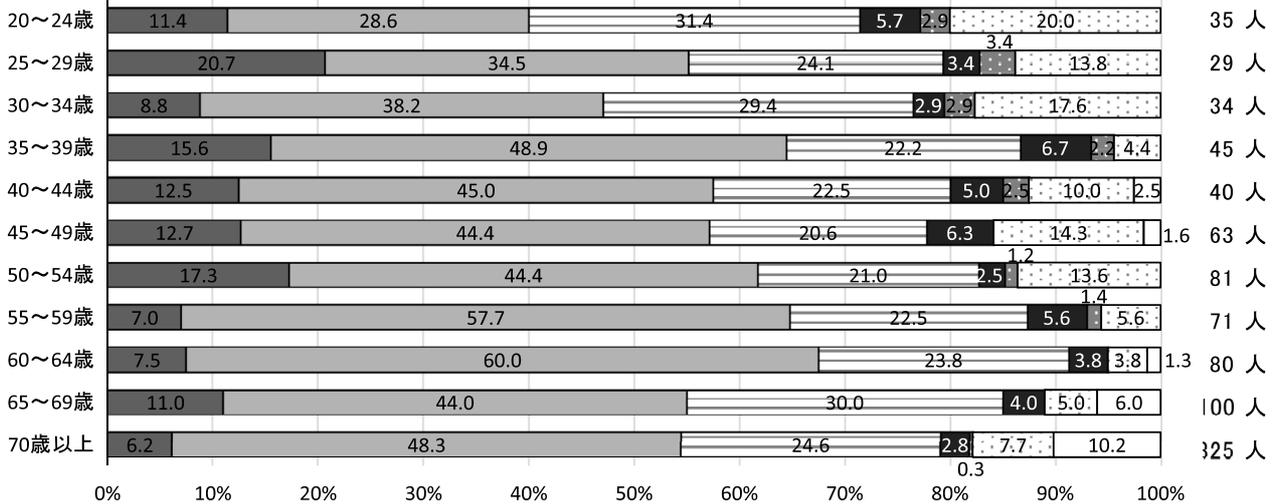
（全国：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府）

前回調査と比較すると、「平等」と感じる割合は、男性で3.4ポイント増（20.6%→24.0%）、女性で1.3ポイント増（12.6%→13.9%）と若干上昇している。

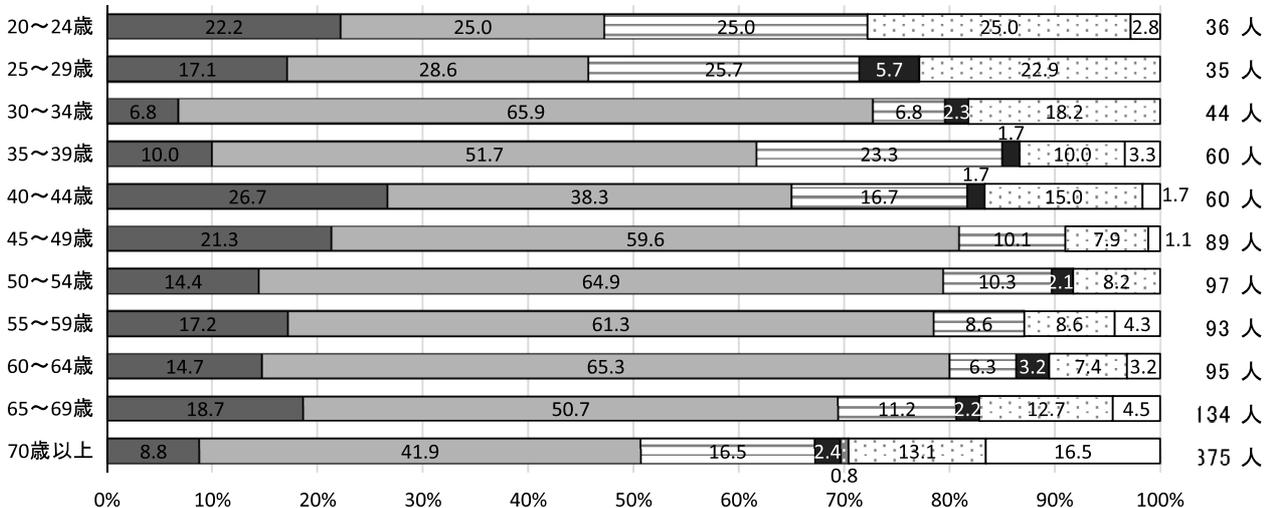
全国と比較すると、本市では“男性優遇”の割合が男女共に低いものの、「平等」と感じる割合は女性では低くなっている。

問4ー(4) 社会通念・慣習・しきたりなど

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

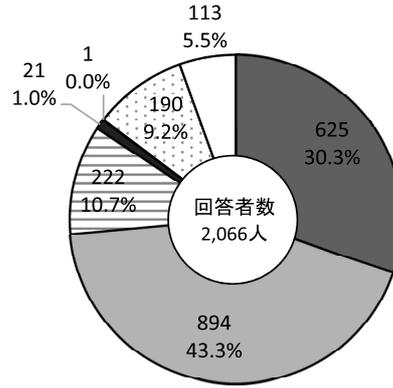
男女別・年齢別にみると、全般的に女性の方が“男性優遇”と感じる割合が高くなっている。

特に40代後半から60代前半の中老年層の女性は、“男性優遇”と感じる割合が8割前後と他の年齢層に比べて高くなっており、社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の格差を日ごろから実感していると考えられる。

オ 政治の場

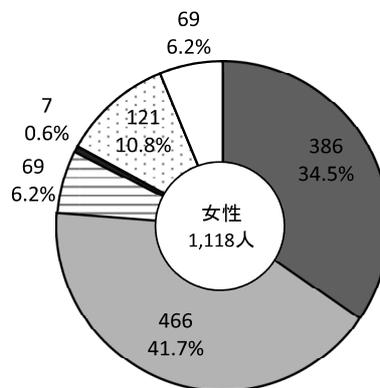
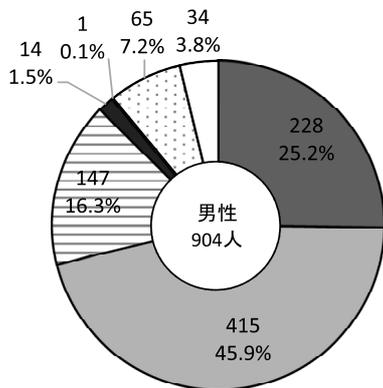
政治の場における男女の地位については、“男性優遇”が73.6%、“女性優遇”が1.0%、「平等」が10.7%と、“男性優遇”が圧倒的に高い割合を占めている。

問4-(5) 政治の場



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

問4-(5) 政治の場【男女別】

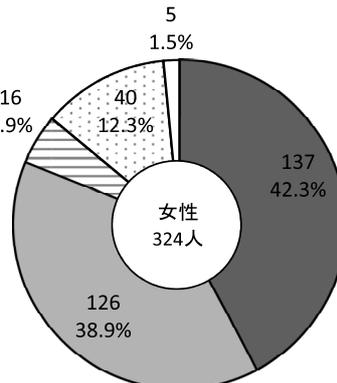
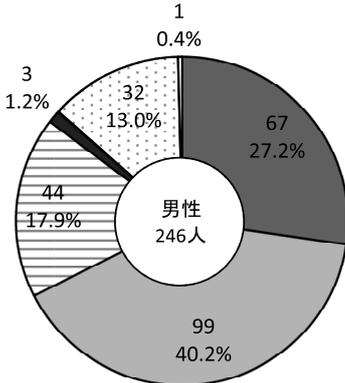


- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

男女別にみると、“男性優遇”と感じる割合は、男性で71.1%、女性で76.2%と、男女共に7割以上で、さらに女性の方が5.1ポイント上回っている。

50歳未満でみると、“男性優遇”と感じる割合が男性67.4%、女性81.2%で、比較的若い世代の女性はより一層、政治の場での男女の格差を感じている。

問4-(5) 政治の場【男女別・50歳未満】



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

※ 平等感の比較（政治の場）

	平等		男性優遇		女性優遇		わからない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
今回	16.3	6.2	71.1	76.2	1.6	0.6	7.2	10.8
前回	17.7	6.0	68.4	75.6	1.4	0.5	6.2	10.2
全国	18.3	11.0	75.2	82.4	1.5	0.9	5.0	5.8

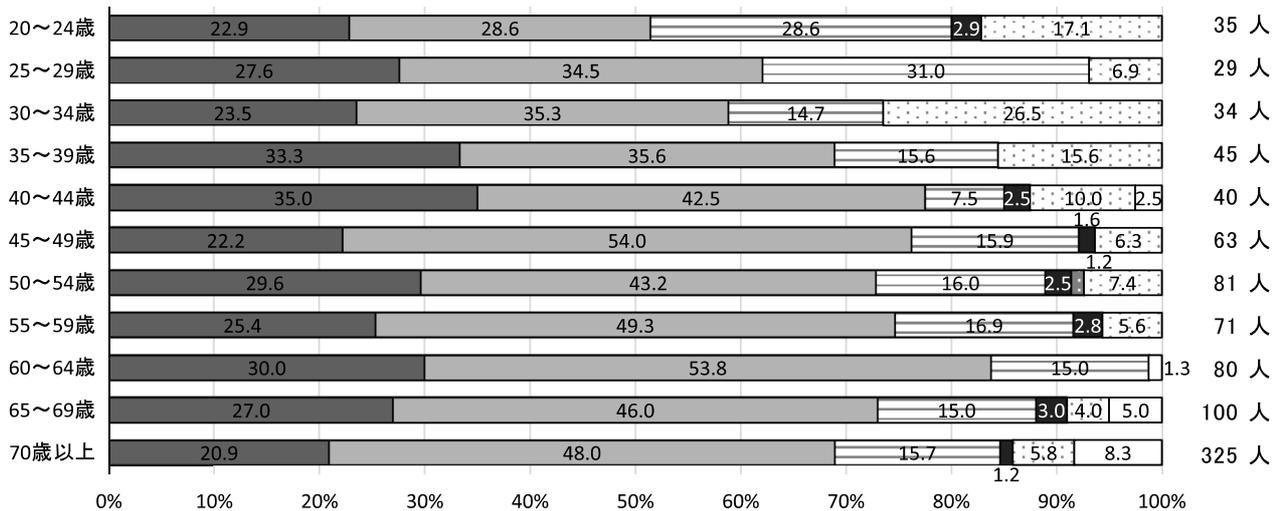
(全国：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府)

前回調査と比較すると、「平等」と感じる割合は、男女共にほとんど変化しておらず（男性：17.7%→16.3%、女性：6.0%→6.2%）、政治における男女共同参画は相変わらず進んでいないと考えられる。

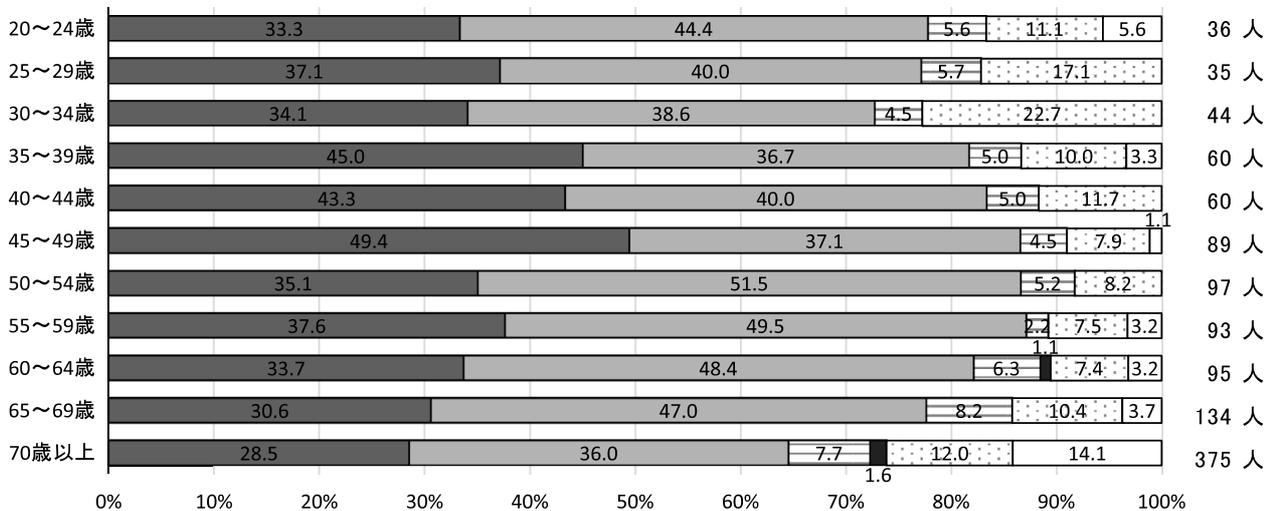
全国と比較すると、本市で「平等」と感じる割合は男女共に国よりもさらに低く、男女格差の是正が必要と考えられる。

問4－（5） 政治の場

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

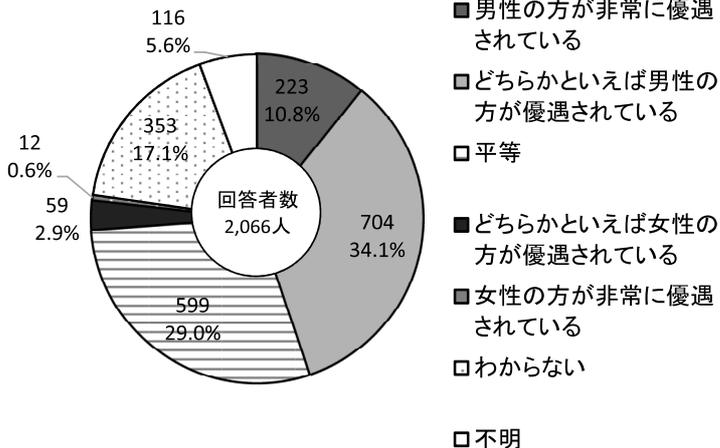
男女別・年齢別にみると、20代の男性では「平等」の割合も比較的高いが、全般的に“男性優遇”と感じる割合が高くなっている。

特に30代後半から60代前半の社会で活躍が期待される現役世代の女性では、“男性優遇”と感じる割合が8割を超えており、政治の場における男女の格差を強く感じていると考えられる。

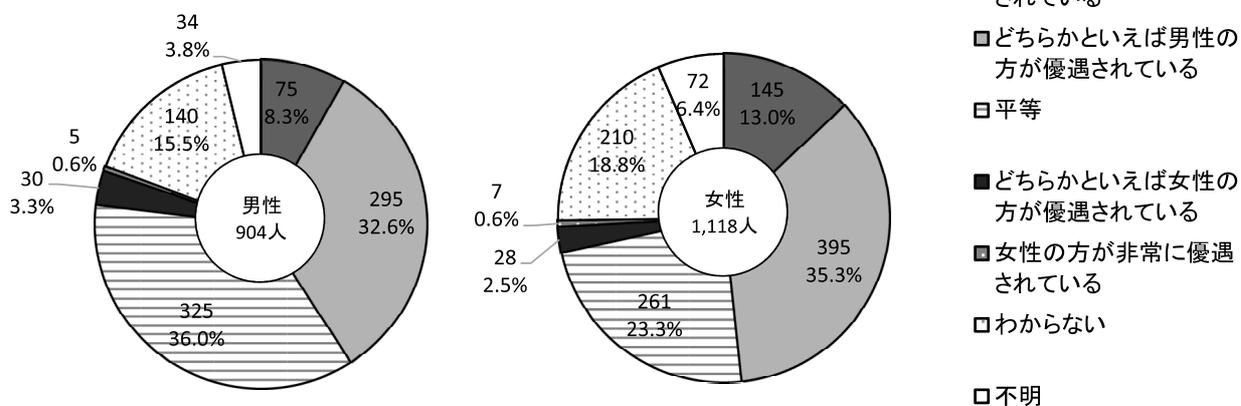
カ 町内会・自治会等の自治組織

町内会・自治会等の自治組織における男女の地位については、“男性優遇”が44.9%、“女性優遇”が3.5%、「平等」が17.1%と、“男性優遇”が高い割合を占めている。

問4-(6) 町内会・自治会等の自治組織



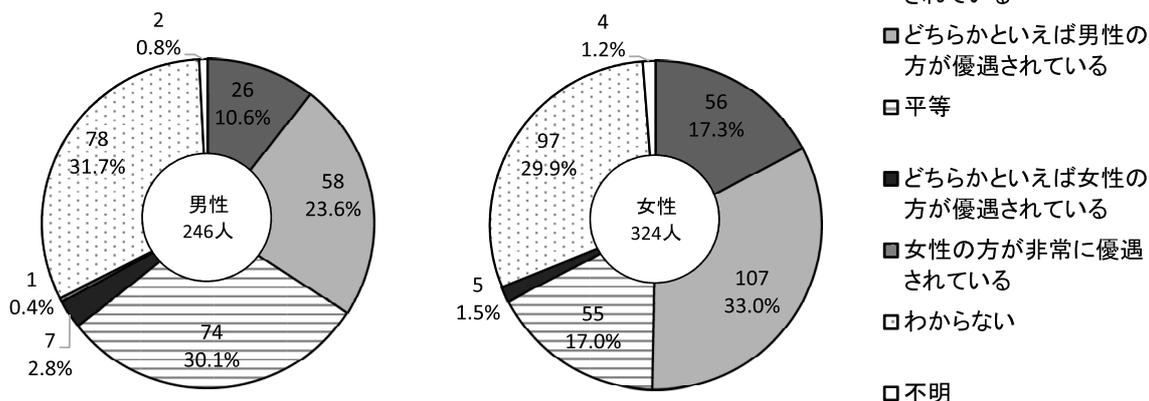
問4-(6) 町内会・自治会等の自治組織【男女別】



男女別にみると、“男性優遇”と感じる割合は、男性で40.9%、女性で48.3%と、女性の方が7.4ポイント上回っている。

50歳未満でみると、「わからない」の割合が全体より高く、男性31.7%、女性29.9%であり、若い世代の自治組織との関係の希薄化が進んでいることがうかがえる。

問4-(6) 町内会・自治会等の自治組織【男女別・50歳未満】



※ 平等感の比較（町内会・自治会等の自治組織、 全国：自治会やPTAなどの地域活動の場）（%）

	平等		男性優遇		女性優遇		わからない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
今回	36.0	23.3	40.9	48.3	3.9	3.1	15.5	18.8
前回	37.9	25.2	38.0	47.5	4.3	2.9	14.4	16.9
全国	47.4	45.7	30.9	38.1	12.6	8.1	9.1	8.1

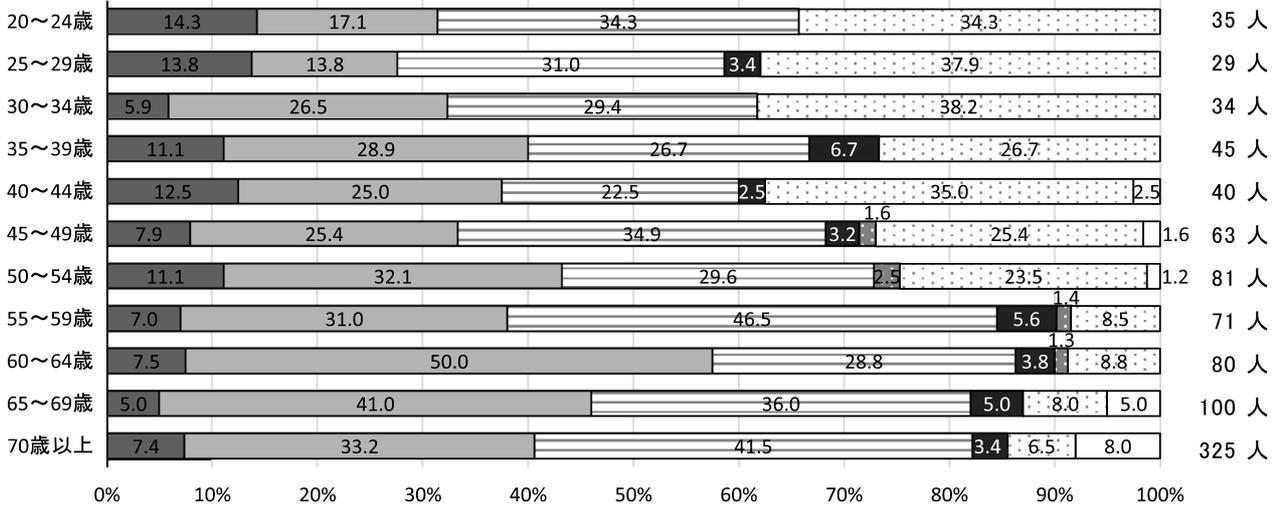
（全国：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府）

前回調査と比較すると、「平等」と感じる割合は、男性で1.9ポイント減（37.9%→36.0%）、女性で1.9ポイント減（25.2%→23.3%）と、男女共に減少している。

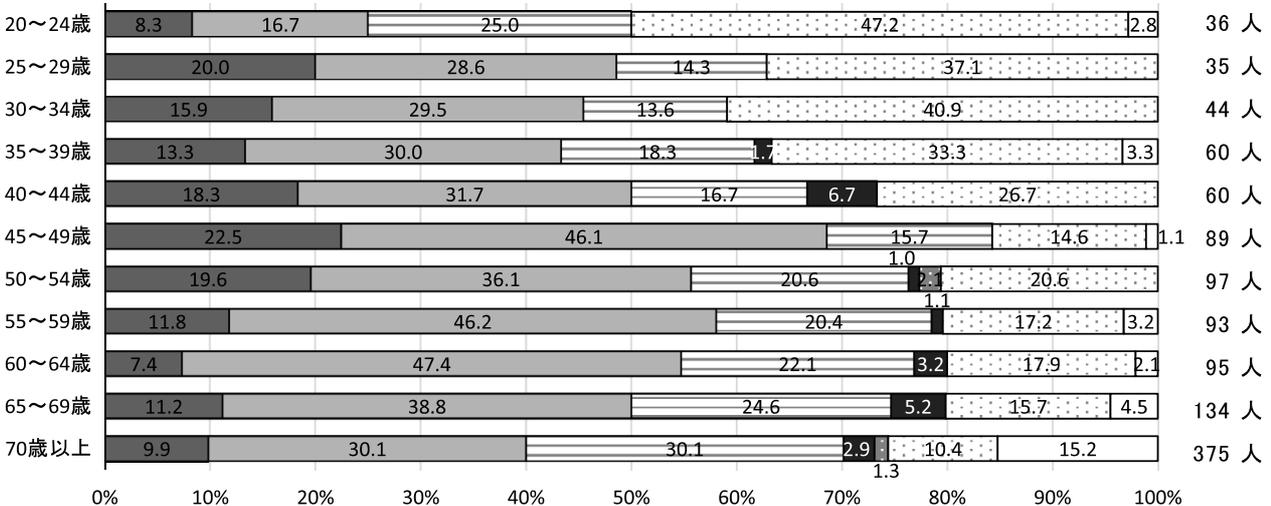
全国と比較すると（※ただし、国の調査では「自治会やPTAなどの地域活動の場」なのであくまで参考）、本市で「平等」と感じる割合は男性で1割、女性で2割ほど低くなっている。

問4－(6) 町内会・自治会等の自治組織

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

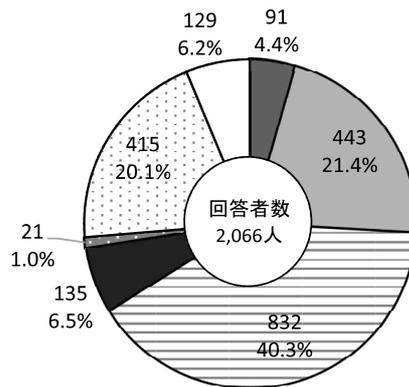
男女別・年齢別にみると、概ねすべての年齢層で、女性の方が“男性優遇”と感じる割合が高くなっており、特に40代・50代・60代の女性は、各年齢層の半数以上が“男性優遇”と感じている。

また、20代、30代の若年層は、男女共に「わからない」割合が比較的高く、自治組織とのかかわりの低さがうかがえる。さらに男性においては、40代～50代前半の年齢層でも、「わからない」割合が比較的高く、自治組織とのかかわりが少ないと考えられる。

キ コミュニティ

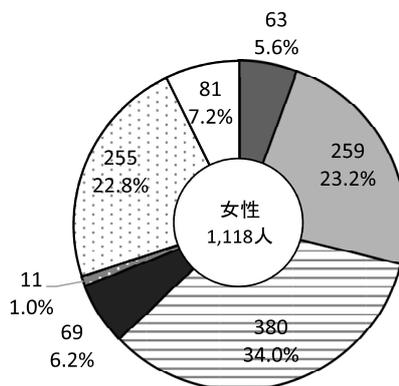
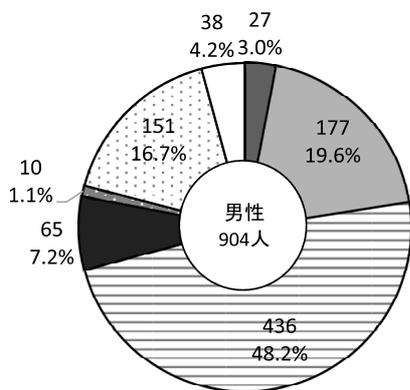
コミュニティにおける男女の地位については、「平等」が40.3%で最も高く、「男性優遇」が25.8%、「女性優遇」が7.5%、となっている。

問4-(7) コミュニティ



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

問4-(7) コミュニティ【男女別】

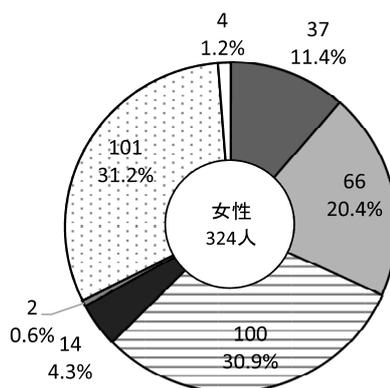
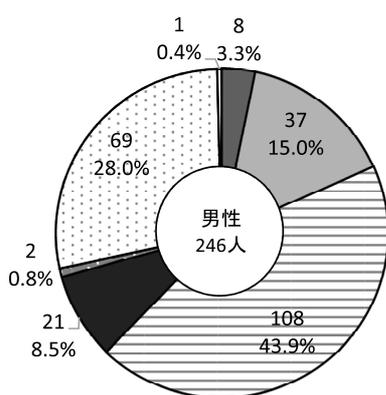


- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

男女別にみると、「平等」と感じる割合は、男性で48.2%、女性で34.0%と、男性の方14.2ポイント上回っている。

50歳未満でみると、「わからない」の割合が全体より高く、男性28.0%、女性31.2%であり、自治組織と同様に、比較的若い世代のコミュニティとの関係性の低さがうかがえる。

問4-(7) コミュニティ【男女別・50歳未満】



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

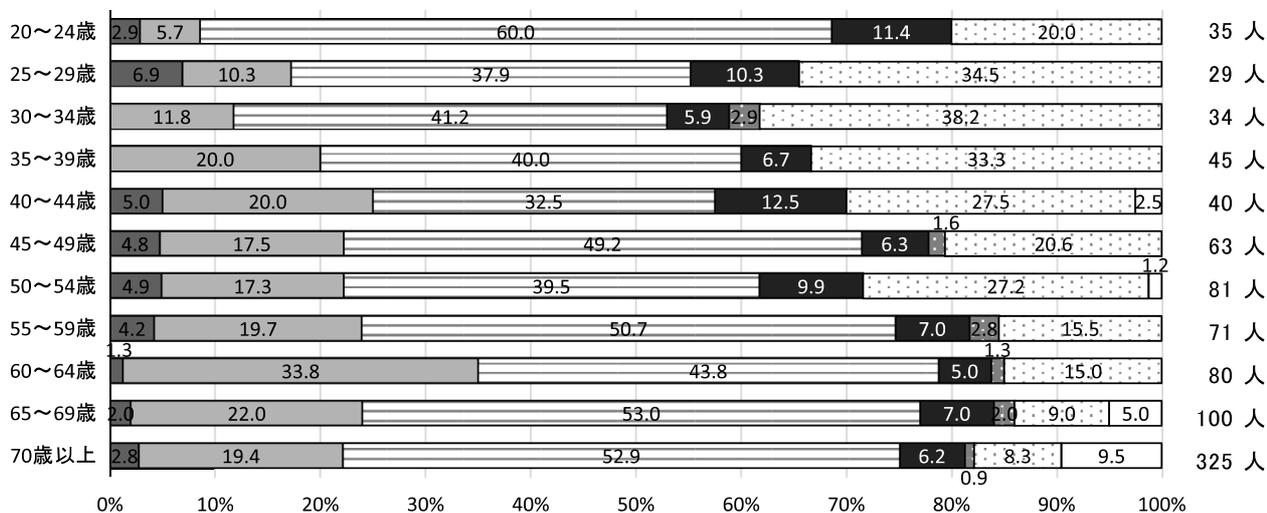
※ 平等感の比較（町内会・自治会等の自治組織）

	平等		男性優遇		女性優遇		わからない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
今回	48.2	34	22.6	28.8	8.3	7.2	16.7	22.8
前回	47.1	34.4	21.0	26.2	9.0	6.7	16.4	23.1

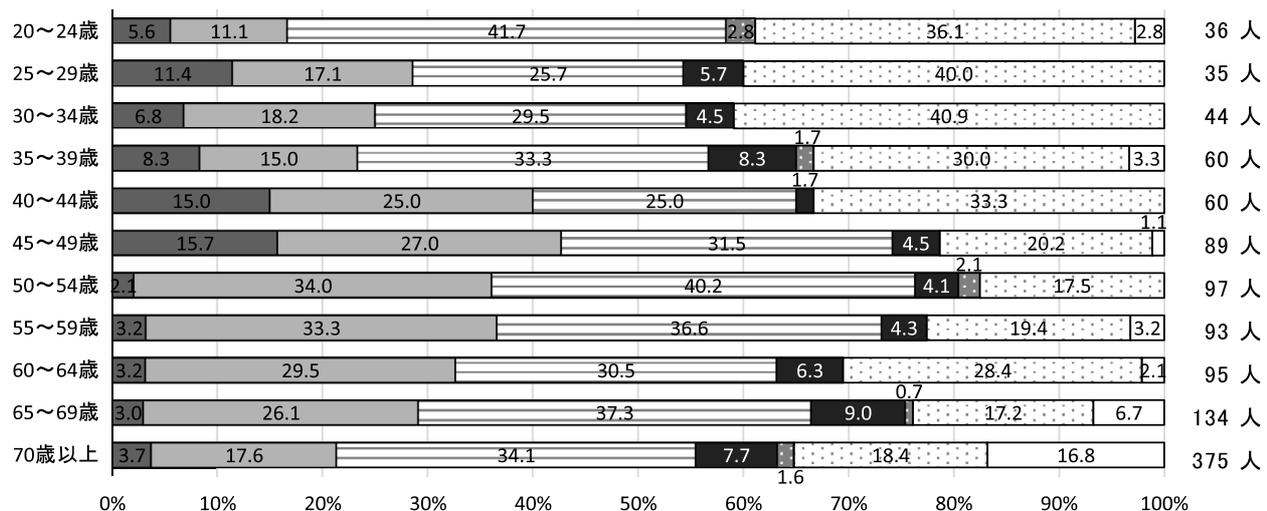
前回調査と比較すると、「平等」と感じる割合は、男女共にあまり変化していない。(男性：47.1%→48.2%、女性：34.4%→34.0%)

問4-(7) コミュニティ

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

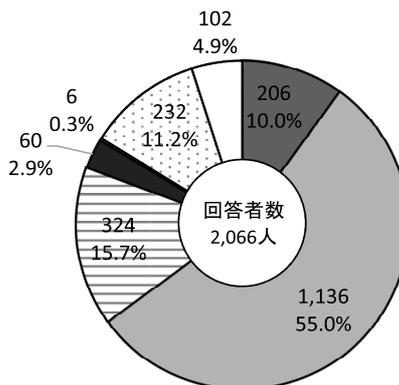
男女別・年齢別にみると、概ねすべての年齢層で、女性の方が“男性優遇”と感じる割合が高くなっており、特に40代・50代の女性は、“男性優遇”と感じる割合が高くなっている。

また、20代、30代、40代前半の若年層は、男女共に「わからない」割合が比較的高く、コミュニティとのかかわりの低さがうかがえる。さらに男性においては、50代前半でも、「わからない」割合が比較的高く、仕事を退職するまではコミュニティとのかかわりが少ないと考えられる。

ク 社会全体

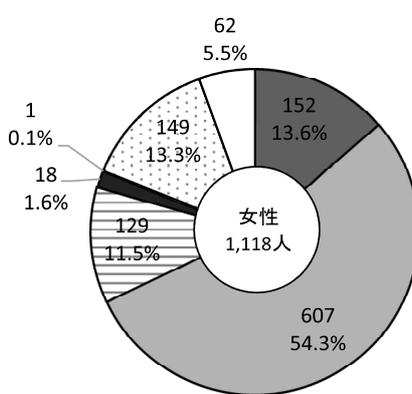
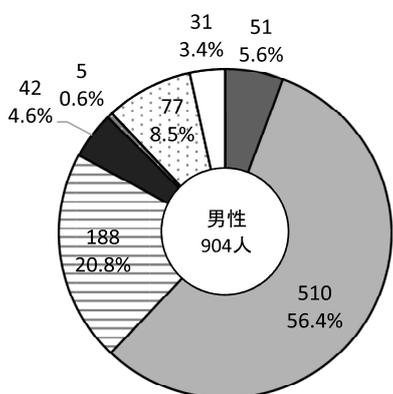
社会全体における男女の地位については、“男性優遇”が65.0%、“女性優遇”が3.2%、「平等」が15.7%と、“男性優遇”が高い割合を占めている。

問4－(8) 社会全体



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

問4－(8) 社会全体【男女別】

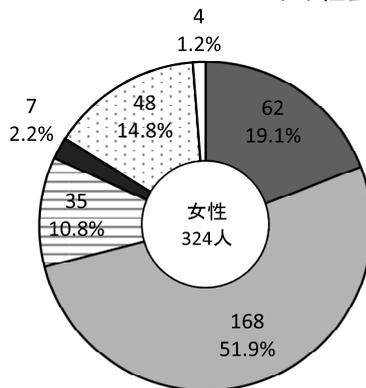
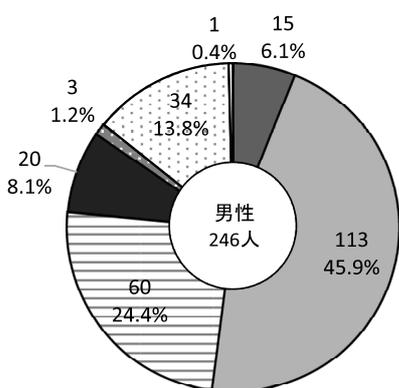


- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

男女別にみると、“男性優遇”と感じる割合は、男性で62.0%、女性で67.9%と、女性の方が5.9ポイント上回っている。

50歳未満でみると、男性では“女性優遇”と感じる割合が全体よりも高く、女性では“男性優遇”と感じる割合が高くなっており、若い世代の男女の意識の差がさらに大きくなっている。

問4－(8) 社会全体【男女別・50歳未満】



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

※ 平等感の比較 (社会全体)

	平等		男性優遇		女性優遇		わからない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
今回	20.8	11.5	62.0	67.9	5.2	1.7	8.5	13.3
前回	20.9	11.1	59.3	65.8	7.2	2.8	7.6	13.9
全国	24.5	18.4	70.2	77.5	4.4	1.9	1.0	2.1

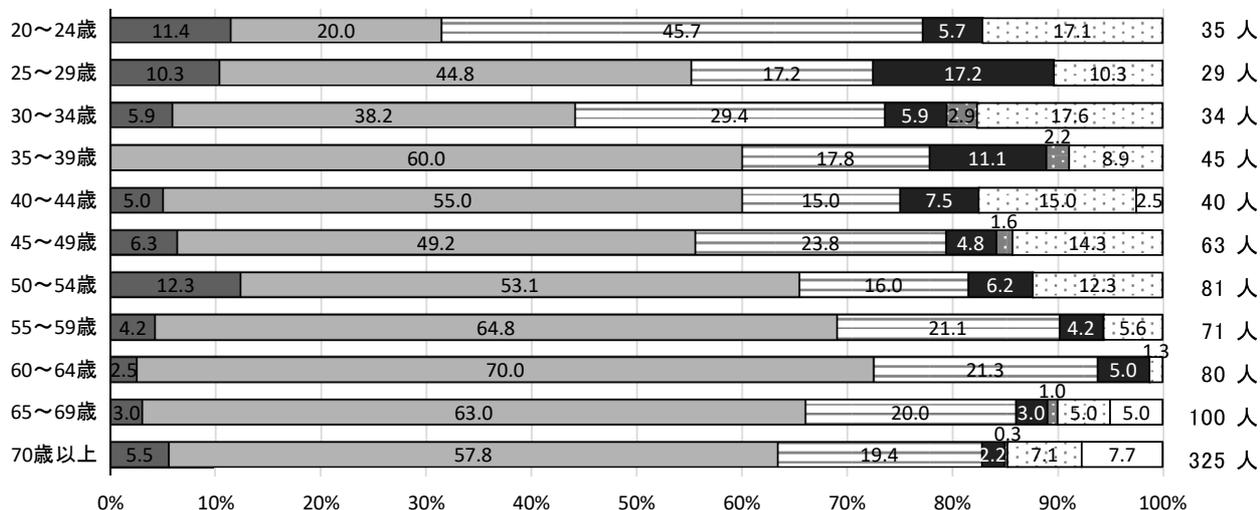
(全国：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府)

前回調査と比較すると、「平等」と感じる割合は、男女共にあまり変化はみられない（男性：20.9%→20.8%、女性：11.1%→11.5%）。

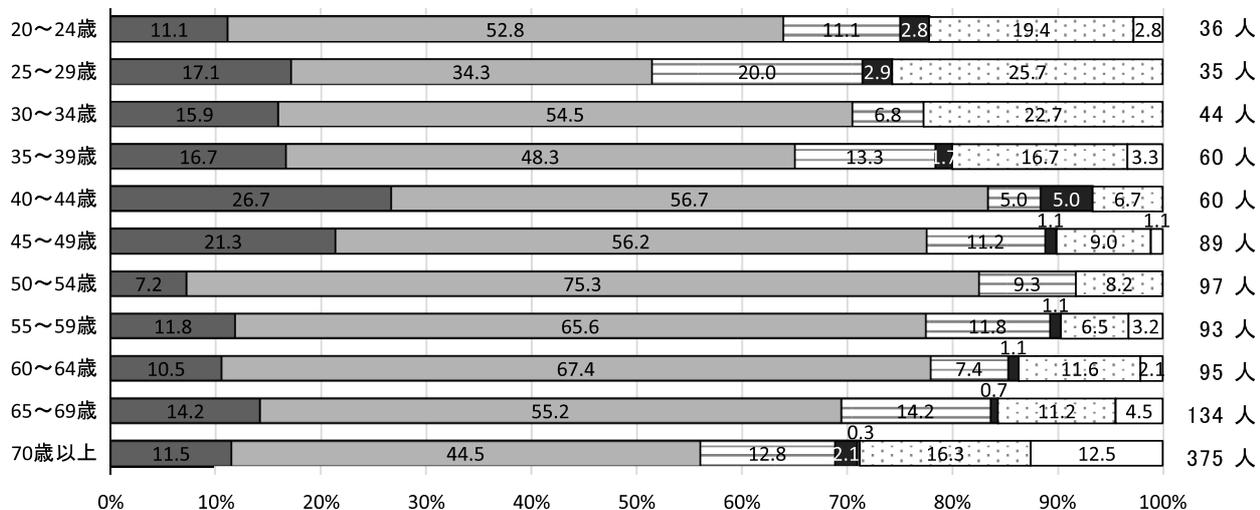
全国と比較すると、本市で「平等」と感じる割合は男女共に低いものの、“男性優遇”の割合も低くなっている。

問4－（8） 社会全体

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▒ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- ▒ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

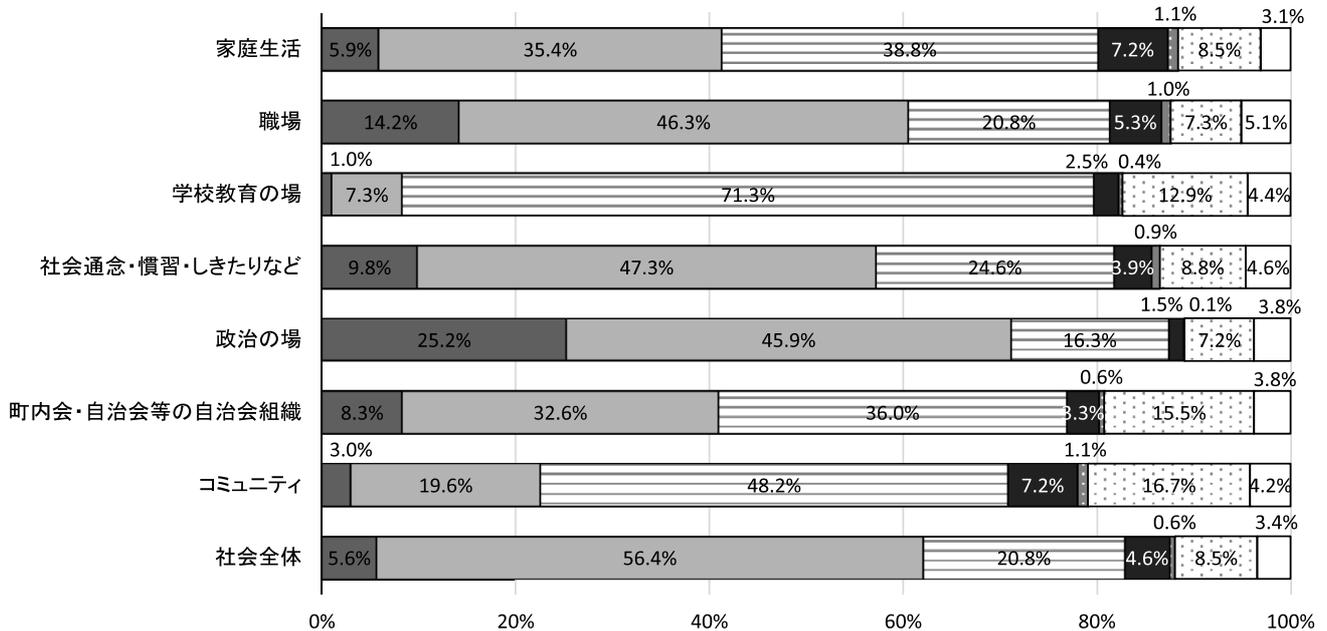
男女別・年齢別にみると、概ねすべての年齢層で、女性の方が“男性優遇”と感じる割合が高くなっており、特に40代・50代の女性は、“男性優遇”と感じる割合が8割前後と高くなっている。

一方、男性の20代後半から30代後半の若い年齢層では、“女性優遇”と感じる割合が比較的高くなっており、前回調査と同じような傾向を示した。

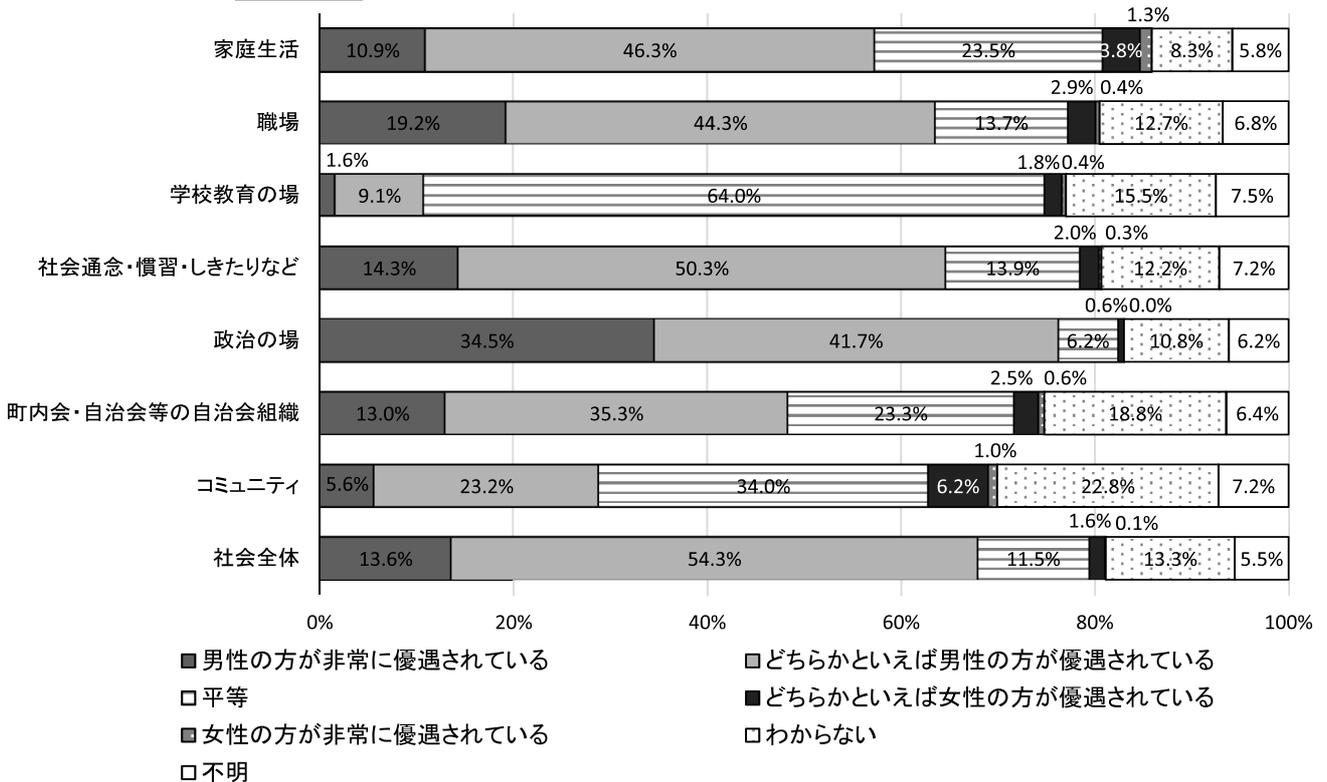
ケ 男女の地位の平等感（項目比較）

問4 男女の地位の平等感

【男性】 940人



【女性】 1,180人



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明

男女別に項目を比較すると、男性では、「職場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「政治の場」「社会全体」で“男性優遇”と感じる割合が5割以上となっている。

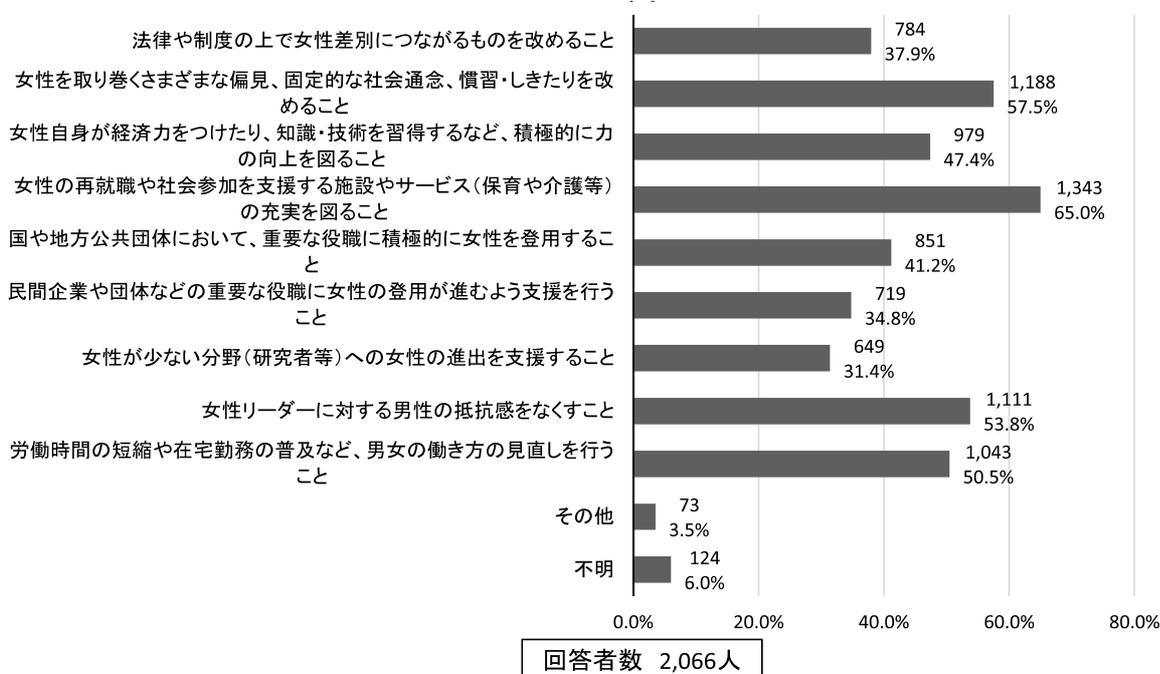
一方、女性では、男性と同様に「職場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「政治の場」「社会全体」で“男性優遇”と感じる割合が5割以上となっているが、それ以外にも「家庭生活」や「町内会・自治会等の自治組織」で約5割～5割以上となり、不平等と感じている。特に「家庭生活」における男女の地位の感じ方には大きな意識の差がある。

(5) 平等になるために不足していること

問5 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために不足している、不十分だと思うことは何ですか。
(すべて選択)

- 1 法律や制度の上で女性差別につながるものを改めること
- 2 女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
- 3 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること
- 4 女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス（保育や介護等）の充実を図ること
- 5 国や地方公共団体において、重要な役職に積極的に女性を登用すること
- 6 民間企業や団体などの重要な役職に女性の登用が進むよう支援を行うこと
- 7 女性が少ない分野（研究者等）への女性の進出を支援すること
- 8 女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと
- 9 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女の働き方の見直しを行うこと
- 10 その他（ ）

問5 平等になるために不足していること

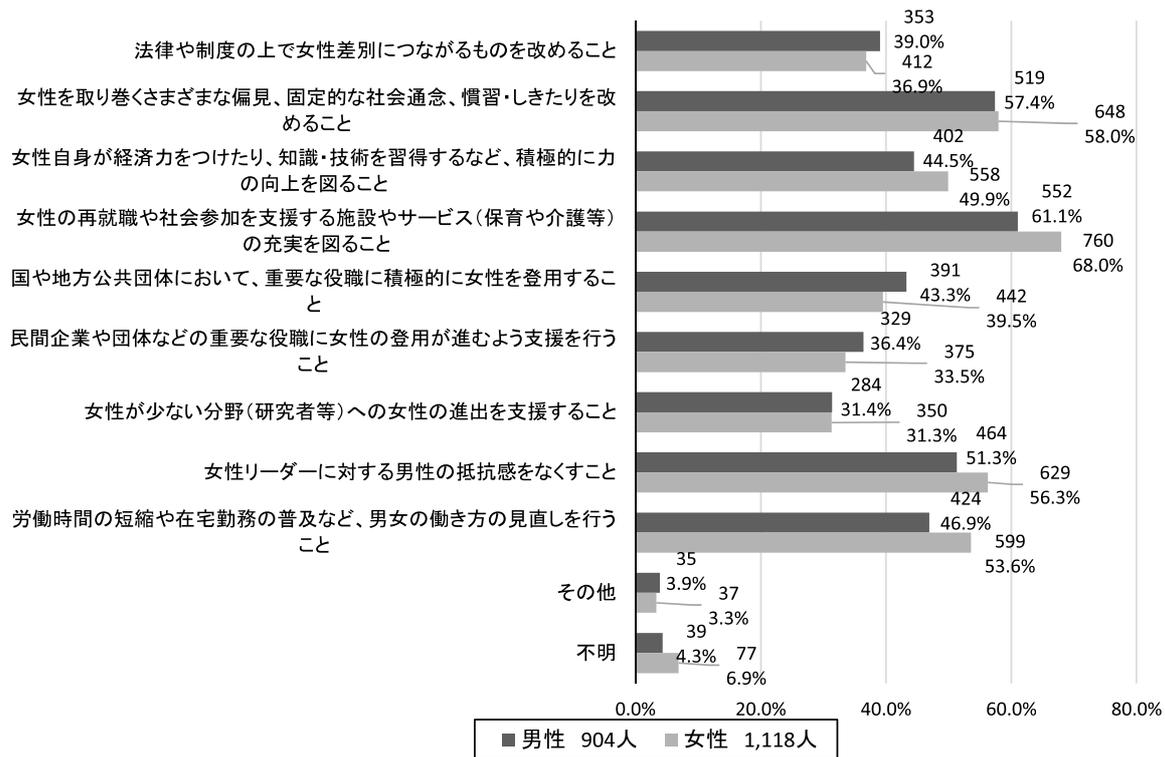


■その他の回答（抜粋）

- ・国会議員の定数を男女比同等とする
- ・男女の別なく相応しい人が相応しい役職に就くことが大切
- ・男性の意識を変えることが最も重要
- ・男性の育休を当たり前にしてほしい
- ・男女という区別ではなく、個人を見ていきたい
- ・女性自身の意識改革も必要
- ・女性優遇されている事案が多い など

男女が社会のあらゆる分野で平等になるために不足していることをみると、「女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス（保育や介護等）の充実を図ること」が全体の65.0%で最も高い割合を占め、次いで、「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が57.5%、「女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと」53.8%となっている。

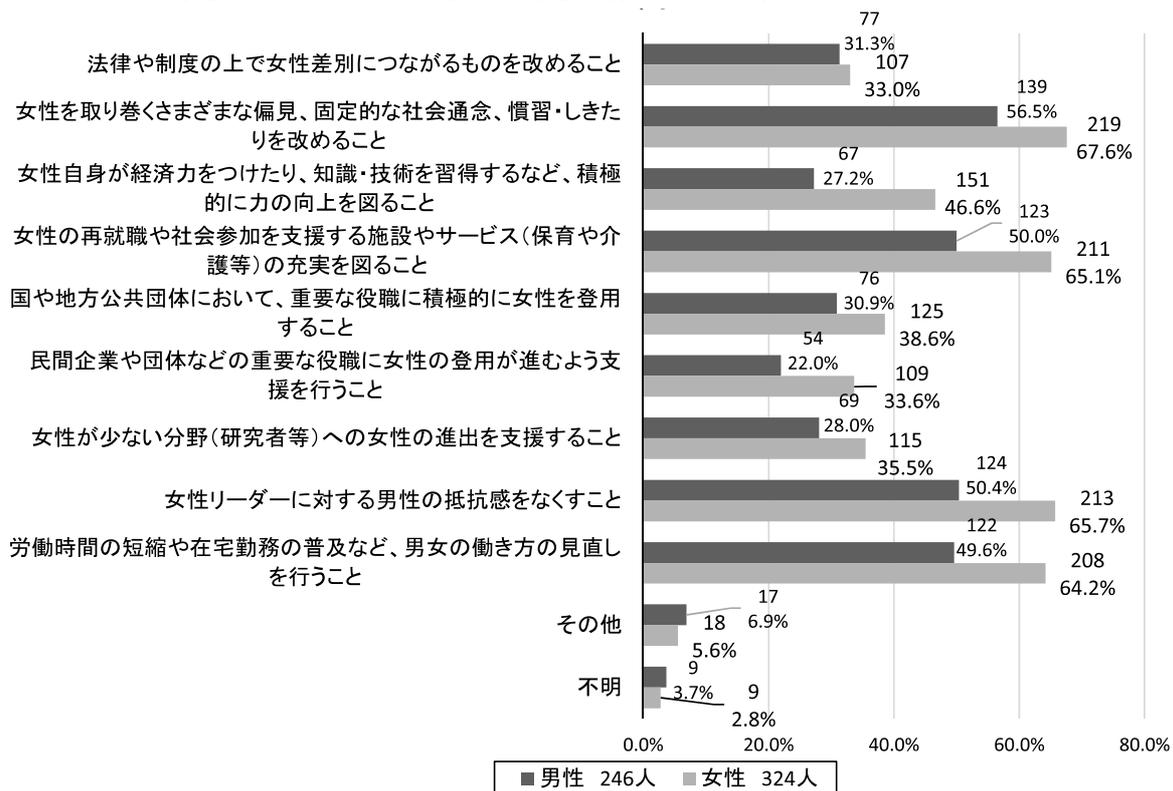
問5 平等になるために不足していること【男女別】



男女別にみると、「施設やサービス（保育や介護等）の充実を図ること」、「女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと」、「男女の働き方の見直しを行うこと」、「女性自身が経済力をつけたり、積極的に力の向上を図ること」は、男性よりも女性で割合が高くなっている。

50歳未満をみると、上記の項目について、全体よりも男女で割合の差が大きく、全体では男女ほぼ同率だった「固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」については、女性で最も割合が高い項目となり、男女差も1割以上となっている。

問5 平等になるために不足していること【男女別・50歳未満】



問5 平等になるために不足していること

【男性・年齢別】

		1位		2位		3位	
20～24歳	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	22 62.9	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	20 57.1	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	16 45.7	
25～29歳	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	20 69.0	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女の働き方の見直しを行うこと	18 62.1	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること=女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	17 58.6	
30～34歳	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	19 55.9	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	18 52.9	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	17 50.0	
35～39歳	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること=労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女の働き方の見直しを行うこと=女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること						24 53.3
40～44歳	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	23 57.5	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	21 52.5	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	18 45.0	
45～49歳	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること=労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女の働き方の見直しを行うこと			32 50.8	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	29 46.0	
50～54歳	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	46 56.8	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	45 55.6	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	43 53.1	
55～59歳	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	45 63.4	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	44 62.0	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	40 56.3	
60～64歳	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	59 73.8	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	57 71.3	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女の働き方の見直しを行うこと	44 55.0	
65～69歳	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	63 63.0	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	51 51.0	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	50 50.0	
70歳以上	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	215 66.2	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	183 56.3	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	53.2 53.2	

【女性・年齢別】

		1位		2位		3位	
20～24歳	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	23 63.9	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	21 58.3	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	20 55.6	
25～29歳	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	24 68.6	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	23 65.7	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女の働き方の見直しを行うこと	21 60.0	
30～34歳	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女の働き方の見直しを行うこと	35 79.5	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	32 72.7	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	30 68.2	
35～39歳	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女の働き方の見直しを行うこと	41 68.3	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	40 66.7	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	38 63.3	
40～44歳	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること=女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること=女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと						42 70.0
45～49歳	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	62 69.7	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	61 68.5	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	59 66.3	
50～54歳	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	71 73.2	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	65 67.0	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	63 64.9	
55～59歳	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	66 71.0	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	59 63.4	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	54 58.1	
60～64歳	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	76 80.0	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	62 65.3	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	61 64.2	
65～69歳	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	113 84.3	女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	87 64.9	女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと	80 59.7	
70歳以上	女性の再就職や社会参加を支援する施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること	223 59.5	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	194 51.7	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女の働き方の見直しを行うこと	160 42.7	

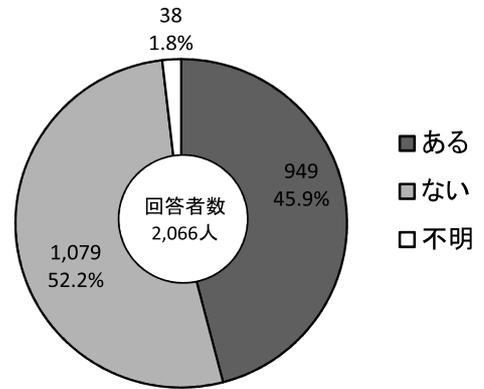
年齢別にみると、男女共に45歳以上は「施設やサービス(保育や介護等)の充実を図ること」が高い割合となっているが、45歳未満の若い世代では、「固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の方が高く、30代の女性では「男女の働き方の見直しを行うこと」が最も高くなっている。

(6) 「男性だから」「女性だから」という決めつけによる生きにくさ

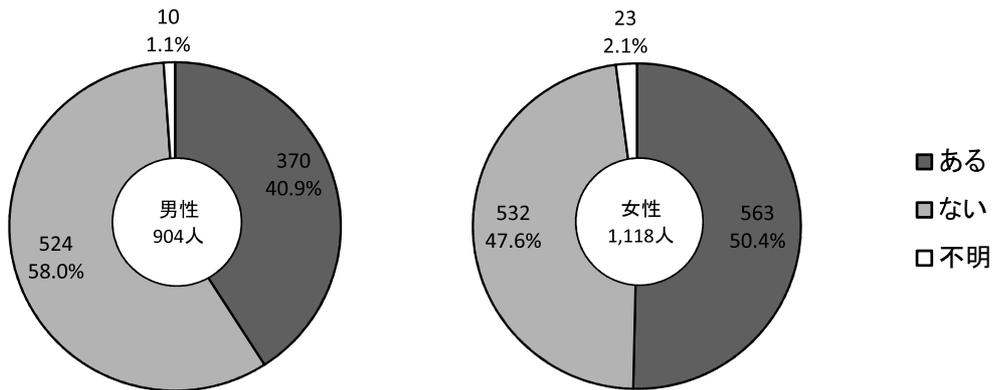
問6 あなたは、「男性だから」「女性だから」という決めつけにより生きにくさを感じたことはありますか。(1つ選択)
 1 ある 2 ない

「男性だから」「女性だから」という決めつけによる生きにくさについて、感じたことが「ある」が45.9%、「ない」が52.2%で、全体の半数弱が生きにくさを感じたことがあると回答している。

問6 「男性だから」「女性だから」という決めつけによる生きにくさ



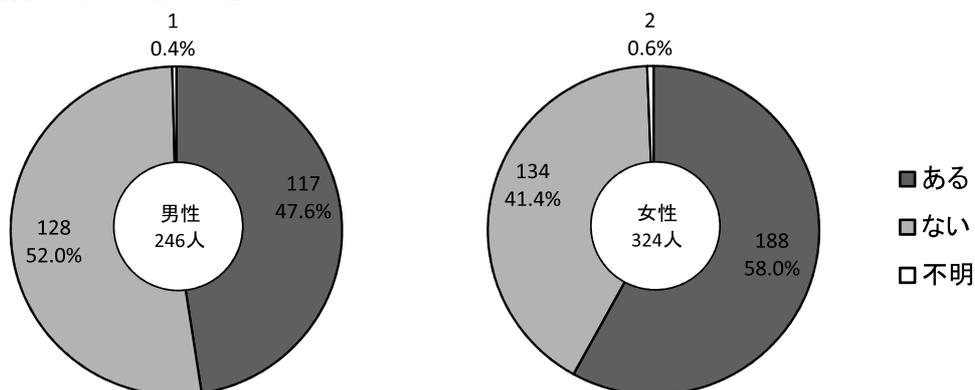
問6 「男性だから」「女性だから」という決めつけによる生きにくさ【男女別】



男女別にみると、性別による決めつけで生きにくさを感じたことが「ある」と回答した割合は、男性で40.9%、女性で50.4%と、女性の方が9.5ポイント高くなっている。

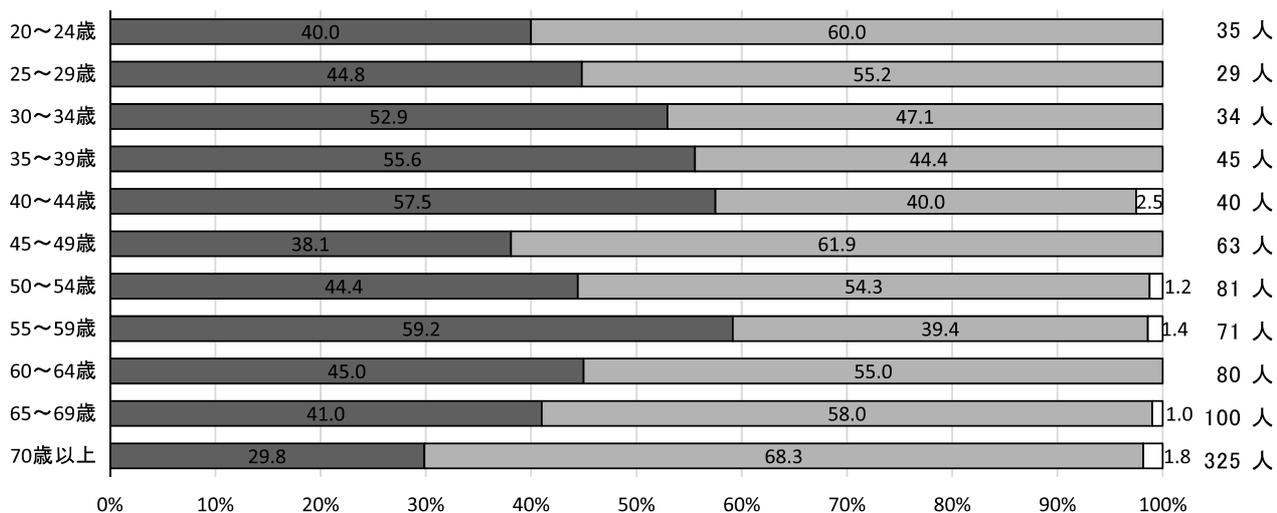
50歳未満でみると、「ある」と回答した割合は男女共に全体より高く、男性で47.6%、女性で58.0%と、女性における割合がさらに高く、若い年代の女性が生きにくさを感じていることがうかがえる。

問6 「男性だから」「女性だから」という決めつけによる生きにくさ【男女別・50歳未満】

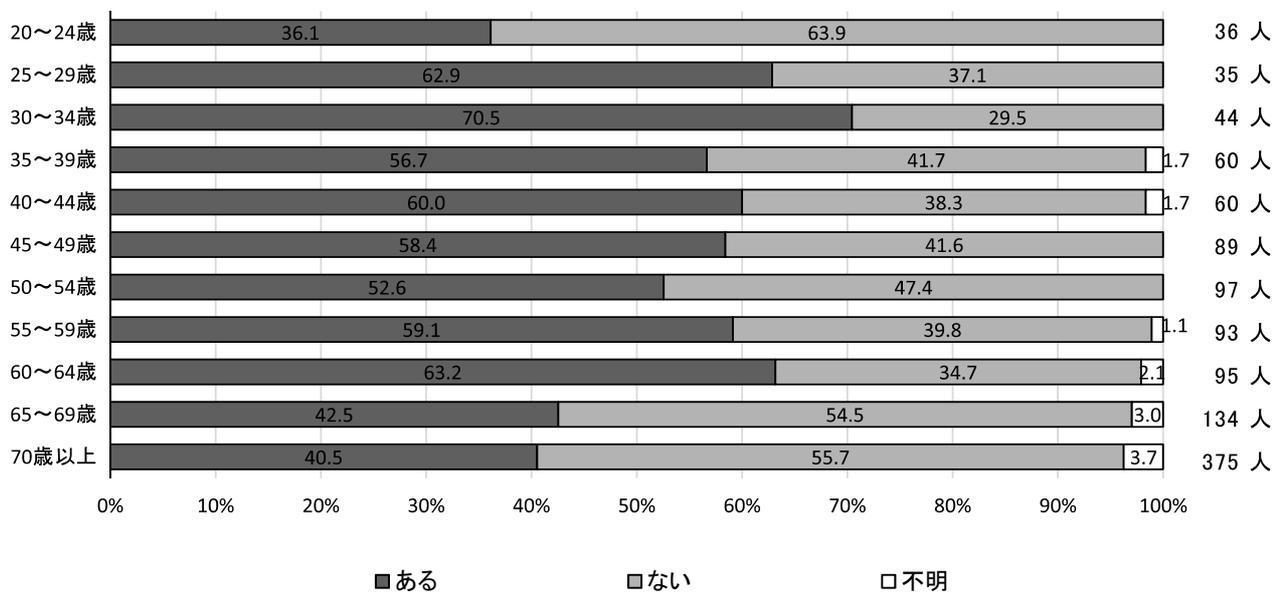


問6 「男性だから」「女性だから」という決めつけによる生きにくさ

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



男女別・年齢別にみると、男性では30代・40代前半、50代後半で、性別による生きにくさを感じたことが「ある」割合が高くなっている。

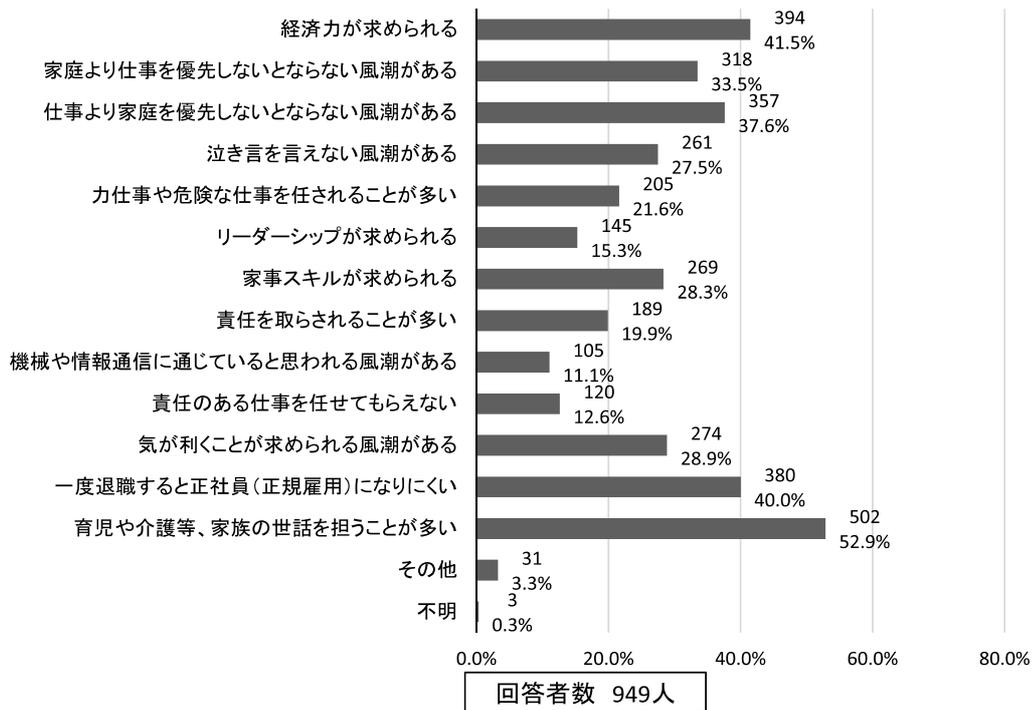
一方、女性では現役世代の20代後半から60代前半で生きにくさを感じたことが「ある」割合が高くなっており、女性が生き生きと活躍するためには、固定的な性別による役割分担意識にとらわれない社会づくりが必要と考えられる。

【※問6で「ある」と回答した方】

問6-1 それはどのような理由ですか。(すべて選択)

- 1 経済力が求められる
- 2 家庭より仕事を優先しないとならない風潮がある
- 3 仕事より家庭を優先しないとならない風潮がある
- 4 泣き言を言えない風潮がある
- 5 力仕事や危険な仕事を任されることが多い
- 6 リーダーシップが求められる
- 7 家事スキルが求められる
- 8 責任を取らされることが多い
- 9 機械や情報通信に通じていると思われる風潮がある
- 10 責任のある仕事を任せてもらえない
- 11 気が利くことが求められる風潮がある
- 12 一度退職すると正社員（正規雇用）になりにくい
- 13 育児や介護等、家族の世話を担うことが多い
- 14 その他（ ）

問6-1 「ある」理由

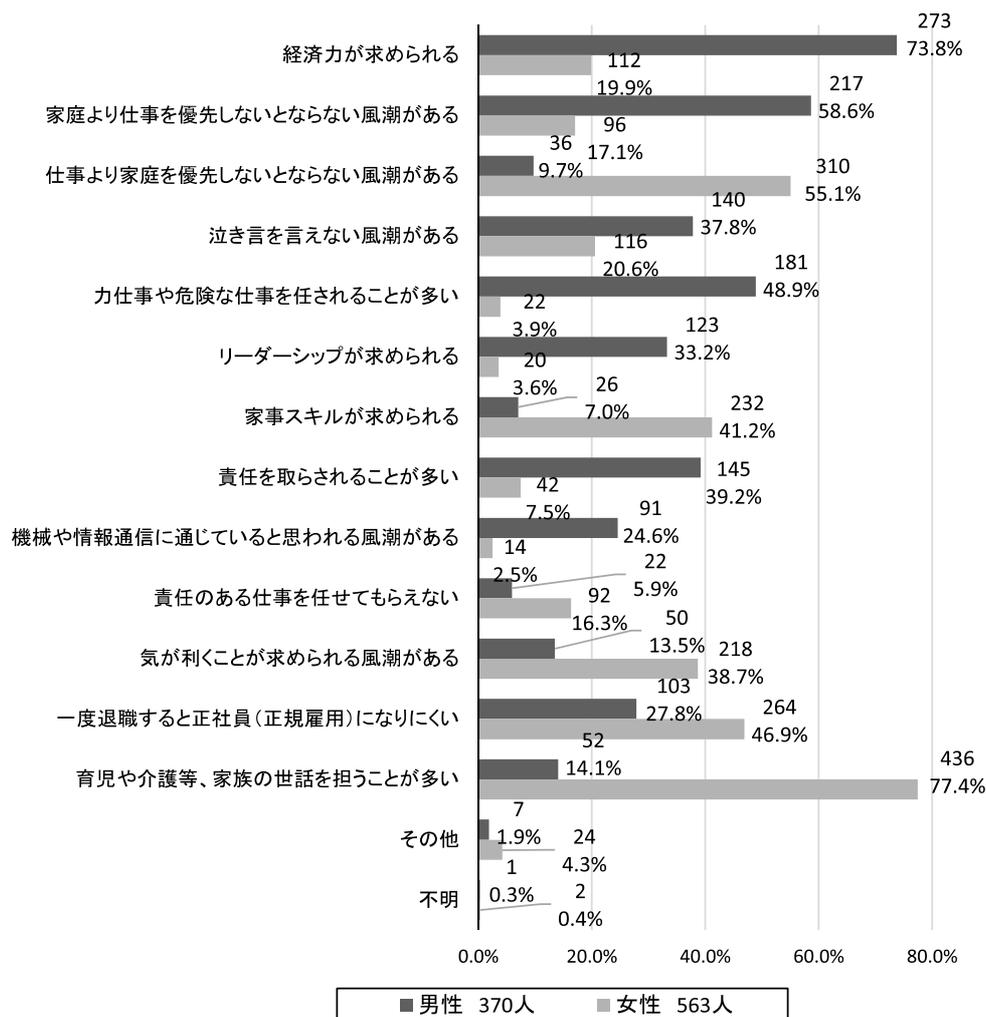


■その他の回答（抜粋）

- ・結婚する時、名字は男性側にすべき、などの慣習に従わざるを得ない
- ・結婚や子どもを生んだ方が良いと圧がかかることがある
- ・見下される、能力がないとされる
- ・容姿が重要視される
- ・会社でのお茶室当番（掃除）が女性だけで行われている など

生きにくさを感じたことが「ある」理由については、「育児や介護等、家族の世話を担うことが多い」が 52.9%で最も多く、次いで「経済力が求められる」が 41.5%、「一度退職すると正社員（正規雇用）になりにくい」が 40.0%、「仕事より家庭を優先しないとならない風潮がある」が 37.6%となっている。

問6-1 「ある」理由【男女別】



男女別にみると、男性では、「経済力が求められる」が73.8%で最も高く、次いで「家庭より仕事を優先しないとまらない風潮がある」が58.6%、「力仕事や危険な仕事を任されることが多い」が48.9%、「責任を取らされることが多い」が39.2%などとなっている。

一方女性では、「育児や介護等、家族の世話を担うことが多い」が最も高く、次いで「仕事より家庭を優先しないとまらない風潮がある」が55.1%、「一度退職すると正社員（正規雇用）になりにくい」が46.9%、「気が利くことが求められる風潮がある」が38.7%などとなっている。

問6-1 「ある」理由

【男性・年齢別】

(上段：回答数、下段：割合)

	1位		2位		3位		
20～24歳	経済力が求められる	10 71.4	泣き言を言えない風潮がある＝力仕事や危険な仕事を任されることが多い		6 42.9		
25～29歳	経済力が求められる	11 84.6	力仕事や危険な仕事を任されることが多い	10 76.9	リーダーシップが求められる＝責任を取られることが多い＝機械や情報通信に通じていると思われる風潮がある	9 69.2	
30～34歳	力仕事や危険な仕事を任されることが多い	12 66.7	経済力が求められる＝家庭より仕事を優先しないとにならない風潮がある		11 61.1		
35～39歳	経済力が求められる	20 80.0	泣き言を言えない風潮がある	13 52.0	力仕事や危険な仕事を任されることが多い	12 48.0	
40～44歳	経済力が求められる	16 69.6	家庭より仕事を優先しないとにならない風潮がある	15 65.2	泣き言を言えない風潮がある＝責任を取られることが多い	12 52.2	
45～49歳	経済力が求められる	21 87.5	責任を取られることが多い		12 50.0	家庭より仕事を優先しないとにならない風潮がある	11 45.8
50～54歳	経済力が求められる	26 72.2	力仕事や危険な仕事を任されることが多い	22 61.1	家庭より仕事を優先しないとにならない風潮がある	21 58.3	
55～59歳	家庭より仕事を優先しないとにならない風潮がある	29 69.0	経済力が求められる		28 66.7	責任を取られることが多い	22 52.4
60～64歳	経済力が求められる	27 75.0	家庭より仕事を優先しないとにならない風潮がある	20 55.6	力仕事や危険な仕事を任されることが多い	16 44.4	
65～69歳	経済力が求められる	29 70.7	家庭より仕事を優先しないとにならない風潮がある	27 65.9	力仕事や危険な仕事を任されることが多い	21 51.2	
70歳以上	経済力が求められる	73 75.3	家庭より仕事を優先しないとにならない風潮がある	59 60.8	力仕事や危険な仕事を任されることが多い	43 44.3	

【女性・年齢別】

(上段：回答数、下段：割合)

	1位		2位		3位	
20～24歳	育児や介護等、家族の世話を担うことが多い	8 61.5	仕事より家庭を優先しないとにならない風潮がある＝家事スキルが求められる		7 53.8	
25～29歳	育児や介護等、家族の世話を担うことが多い	15 68.2	気が利くことが求められる風潮がある	14 63.6	家事スキルが求められる	13 59.1
30～34歳	育児や介護等、家族の世話を担うことが多い	23 74.2	気が利くことが求められる風潮がある	22 71.0	仕事より家庭を優先しないとにならない風潮がある＝家事スキルが求められる＝一度退職すると正社員(正規雇用)になりにくい	17 54.8
35～39歳	育児や介護等、家族の世話を担うことが多い	26 76.5	仕事より家庭を優先しないとにならない風潮がある＝家事スキルが求められる		18 52.9	
40～44歳	育児や介護等、家族の世話を担うことが多い	30 83.3	仕事より家庭を優先しないとにならない風潮がある	26 72.2	家事スキルが求められる	20 55.6
45～49歳	育児や介護等、家族の世話を担うことが多い	44 84.6	仕事より家庭を優先しないとにならない風潮がある	33 63.5	一度退職すると正社員(正規雇用)になりにくい	28 53.8
50～54歳	育児や介護等、家族の世話を担うことが多い	45 88.2	仕事より家庭を優先しないとにならない風潮がある	34 66.7	一度退職すると正社員(正規雇用)になりにくい	25 49.0
55～59歳	育児や介護等、家族の世話を担うことが多い	44 80.0	仕事より家庭を優先しないとにならない風潮がある	33 60.0	一度退職すると正社員(正規雇用)になりにくい	30 54.5
60～64歳	育児や介護等、家族の世話を担うことが多い	56 93.3	仕事より家庭を優先しないとにならない風潮がある	34 56.7	一度退職すると正社員(正規雇用)になりにくい	29 48.3
65～69歳	育児や介護等、家族の世話を担うことが多い	45 78.9	仕事より家庭を優先しないとにならない風潮がある	45 78.9	一度退職すると正社員(正規雇用)になりにくい	30 52.6
70歳以上	育児や介護等、家族の世話を担うことが多い	100 65.8	仕事より家庭を優先しないとにならない風潮がある	67 44.1	一度退職すると正社員(正規雇用)になりにくい	62 40.8

男女別・年齢別にみると、男性では全年齢層で「経済力が求められる」が高い割合だが、20代・30代の若い年齢層では「力仕事や危険な仕事を任されることが多い」も高くなっている。女性は全年齢層で「育児や介護等、家族の世話を担うことが多い」が最も高い割合を占めている。